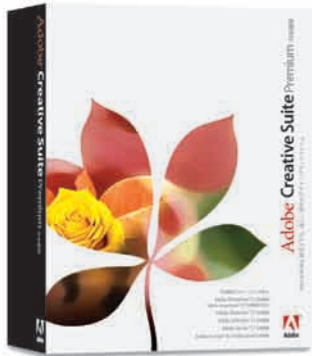


製品概要



Adobe Creative Suite Premium 日本語版

PrintもWebも統合された、新しい世代のデザインプラットフォーム
オープンブライズ

Adobe Creative Suite Premiumに含まれるアプリケーション：
Adobe Photoshop CS、Adobe Illustrator CS、Adobe InDesign CS、
Adobe GoLive CS、Adobe Acrobat 6.0 Professional、Adobe Version Cue

必要システム構成

Windows	Macintosh
Intel Pentium IIIまたは4クラスプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ	PowerPC G3、G4、G5プロセッサを搭載したコンピュータ
Microsoft Windows 2000日本語版 (Service Pack 3)、Windows XP日本語版	Apple Mac OS X v.10.2.4~10.3日本語版およびJava Runtime Environment 1.4.1
アプリケーション1つあたり192MB以上のRAM (256MB以上を推奨) ※複数アプリケーションを同時に実行するには追加のRAMが必要	アプリケーション1つあたり192MB以上のRAM (256MB以上を推奨) ※複数アプリケーションを同時に実行するには追加のRAMが必要
Version Cueデスクトップサーバの動作には追加のRAM128MBが必要	Version Cueデスクトップサーバの動作には追加のRAM128MBが必要
全てのアプリケーションのインストールには1.820GB以上の空き容量のあるハードディスクが必要	全てのアプリケーションのインストールには2.205GB以上の空き容量のあるハードディスクが必要
1,024×768以上の画面解像度をサポートするディスプレイ	1,024×768以上の画面解像度をサポートするディスプレイ
16bit以上のカラー表示が可能なディスプレイ、ビデオカード (24bitカラー以上を推奨)	16bit以上のカラー表示が可能なディスプレイ、ビデオカード (24bitカラー以上を推奨)
CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブ
Adobe PostScriptプリンタ (Adobe PostScript Level 2またはAdobe PostScript 3プリンタ)	Adobe PostScriptプリンタ (Adobe PostScript Level 2またはAdobe PostScript 3プリンタ)
プロダクトアクティベーション (ライセンス認証)のためにインターネット接続または電話回線	インターネット接続 (推奨)
マルチメディア機能を使用するにはQuickTime 6.3が必要	マルチメディア機能を使用するにはQuickTime 6.3が必要

Adobe Creative Suite Standard 日本語版

PrintもWebも統合された、新しい世代のデザインプラットフォーム
オープンブライズ

Adobe Creative Suite Standardに含まれるアプリケーション：
Adobe Photoshop CS、Adobe Illustrator CS、Adobe InDesign CS、
Adobe Version Cue

必要システム構成

Windows	Macintosh
Intel Pentium IIIまたは4クラスプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ	PowerPC G3、G4、G5プロセッサを搭載したコンピュータ
Microsoft Windows 2000日本語版 (Service Pack 3)、Windows XP日本語版	Apple Mac OS X v.10.2.4~10.3日本語版およびJava Runtime Environment 1.4.1
アプリケーション1つあたり192MB以上のRAM (256MB以上を推奨) ※複数アプリケーションを同時に実行するには追加のRAMが必要	アプリケーション1つあたり192MB以上のRAM (256MB以上を推奨) ※複数アプリケーションを同時に実行するには追加のRAMが必要
Version Cueデスクトップサーバの動作には追加のRAM128MBが必要	Version Cueデスクトップサーバの動作には追加のRAM128MBが必要
全てのアプリケーションのインストールには1.375GB以上の空き容量のあるハードディスクが必要	全てのアプリケーションのインストールには1.6GB以上の空き容量のあるハードディスクが必要
1,024×768以上の画面解像度をサポートするディスプレイ	1,024×768以上の画面解像度をサポートするディスプレイ
16bit以上のカラー表示が可能なディスプレイ、ビデオカード (24bitカラー以上を推奨)	16bit以上のカラー表示が可能なディスプレイ、ビデオカード (24bitカラー以上を推奨)
CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブ
Adobe PostScriptプリンタ (Adobe PostScript Level 2またはAdobe PostScript 3プリンタ)	Adobe PostScriptプリンタ (Adobe PostScript Level 2またはAdobe PostScript 3プリンタ)
プロダクトアクティベーション (ライセンス認証)のためにインターネット接続または電話回線	インターネット接続 (推奨)
マルチメディア機能を使用するにはQuickTime 6.3が必要	マルチメディア機能を使用するにはQuickTime 6.3が必要

Adobe Illustrator CS 日本語版

すべてのデザインのために。
業界標準ベクトルグラフィックソフトウェア

オープンブライズ

必要システム構成

Windows	Macintosh
Intel Pentium IIIまたは4クラスプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ	PowerPC G3、G4、G5プロセッサを搭載したコンピュータ
Microsoft Windows 2000日本語版 (Service Pack 3)、Windows XP日本語版	Apple Mac OS X v.10.2.4~10.3日本語版およびJava Runtime Environment 1.4.1
192MB以上のRAM (256MB以上を推奨)	192MB以上のRAM (256MB以上を推奨)
470MB以上の空き容量のあるハードディスク	470MB以上の空き容量のあるハードディスク
CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブ
Adobe PostScriptプリンタ (Adobe PostScript Level 2またはAdobe PostScript 3プリンタ)	Adobe PostScriptプリンタ (Adobe PostScript Level 2またはAdobe PostScript 3プリンタ)

Adobe Creative Suite 出力対応店について

Adobe Creative Suite 出力対応店についての情報は、アドビ システムズ Web サイトでご確認いただけます。

<http://www.adobe.co.jp/print/printshop/>

アドビ ライセンス プログラムのご案内

Transactional License Program トランザクショナルライセンス プログラム

少規模から手軽にご利用可能。幅広い導入規模に柔軟に対応するライセンスプログラム

Contractual License Program コントラクチュアルライセンス プログラム

全社規模でのアドビ製品導入に最適。海外拠点も含むワールドワイドなライセンスプログラム

その他に、教育機関向けライセンスプログラム、ガバメント向けライセンスプログラムもご提供します。

ライセンスプログラムについてのお問い合わせ窓口は、アドビ製品取扱会社にお問い合わせいただくか、アドビ ライセンス コールセンターまたはアドビ Web サイトをご利用下さい。

アドビ ライセンス コールセンター **03-5350-7135** 受付時間：9:30～17:30 土曜・日曜・祝休日・会社指定休日を除く

最新の情報は、アドビ オープンオプション ライセンス Web サイトでご覧いただけます。 <http://www.adobe.co.jp/store/openoptions/>

お問い合わせ先

アドビ製品は、お近くのアドビ認定ディーラー (AAD : Adobe Advanced Dealer) でお買い求めください。AAD リストをはじめとする最新情報は、アドビ システムズ Web サイト (www.adobe.co.jp) で入手してください。製品の購入に関する詳細はカスタマーインフォメーションセンター (Tel. 03-5350-0407) へお問い合わせください。

アドビ システムズ 株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.co.jp

Adobe Systems Incorporated 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA www.adobe.com

アドビストア (注文専用) フリーダイヤル 0120-60-3884 または 0120-61-3884 ※アドビストアはアドビのオンラインストアです。

アドビカスタマーインフォメーションセンター (製品に関するお問い合わせ) 03-5350-0407 受付時間 9:30～17:30 土曜・日曜・祝休日および会社指定休日を除く

この資料は、Adobe Creative Suite および OpenType で作成され、PDF/X-1a で出力されています。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、Acrobat ロゴ、Adobe Illustrator、GoLive、InDesign、Photoshop、PostScript および "Tools for the New Work" は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Microsoft、OpenType および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Apple、Mac OS、Macintosh および QuickTime は、米国およびその他の国々における Apple Computer, Inc. の登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利所有者の所有物です。

© 2004 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan. ASJST439 6/04

この資料の掲載内容は、2004年6月末日現在のものです。内容に関しては予告なく変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。



Tools for the New Work™

Adobe® Illustrator® CS 日本語版 コンプリート コンバージョンガイド



Adobe

そろそろ Adobe® Creative Suite に移行しませんか？ ～フルデジタル制作環境への移行～

フルデジタル制作フローへ

グラフィックデザインやDTPの制作現場では、ここ数年で劇的な変化が訪れています。デジタルカメラの普及、CTP化の浸透など、入出力も含めた制作環境のフルデジタル化が加速しています。従来の制作環境では、色の基準はアナログ工程のポジフィルム、反射原稿や色校正紙に依存していました。しかし、このアナログ工程の介在が、DTP化、デジタル化の制作フローのさらなる効率化を妨げる要因にもなっていました。

コスト削減や短納期を実現するためフルデジタル化を進めるためには、アナログ工程を省略し、フルデジタルの制作フローを構築する必要があります。さらにフルデジタルの制作フローにおいても、事故を防ぎ、高い品質を保つためには、適切なコミュニケーションを可能にする制作フローの標準化が求められます。

制作フローの標準化のためには、標準的な色基準の設定をはじめとしたカラーマネジメント、最適なツールやフォント、プラットフォームの選定を含めた制作システムの構築、校正のデジタル化、入稿の簡素化・信頼性の向上がより一層重要になってきます。

一般的な従来工程の制作フロー



フルデジタル制作フロー



カラーマネジメント

異なった色基準 → 標準的な色基準
標準的な色基準
Adobe RGB
Japan Color 2001
JMPA カラー

→ 3

フォント環境

OCFフォント → OpenType フォント
PDFへの埋め込み
プリンタフォント不要
クロスプラットフォーム

→ 5

PDFワークフロー

ネイティブファイル交換 → Adobe PDF
PDF入稿
デジタル校正
デジタル権利マネジメント

→ 7

互換性について

旧バージョンとの互換性 → 25
テキストに関するQ&A → 28

Adobe Creative Suite → 29

Adobe® Illustrator® CSなら…

フルデジタル制作環境に対応して大幅に機能が強化されています。

さらに強力になったクリエイティブパワー

・ベクトルツールならではの優れた描画力

9

・ベクトルグラフィックを超えた表現力

11

タイポグラフィ機能の充実

・刷新されたタイポグラフィ

13

・効率的なタイポグラフィの運用

15

作業効率の大幅な向上が可能

・シンボル/ライブラリによる作業の効率化

17

・操作性の向上と習熟の容易さ

19

安定しパフォーマンスが向上した出力環境

・より安全かつ高品質な出力環境の提供

21

・データ入稿の方法

23

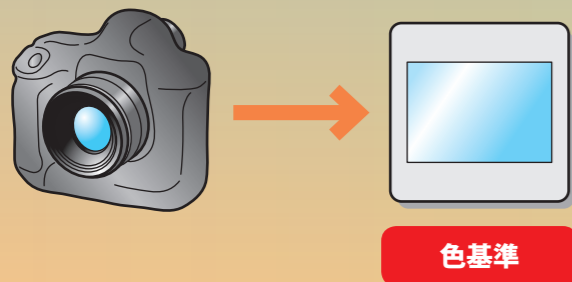
Digital Environment

フルデジタル制作環境へ：カラーマネジメント

従来の工程では…

撮影

・ポジフィルム／反射原稿による色基準

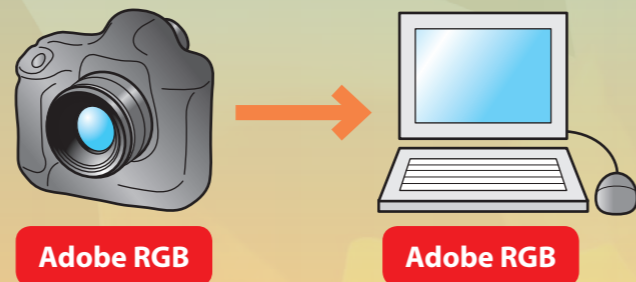


ポジフィルム／反射原稿が色基準です。

フルデジタル環境では…

デジタルカメラ

・モニタによる確認



ポジフィルム／反射原稿にかわり、モニタで評価を行う必要があります。

写真原稿のカラーマネジメント

モニタのキャリブレーション

色基準: Adobe RGB

ICCプロファイルの埋め込み

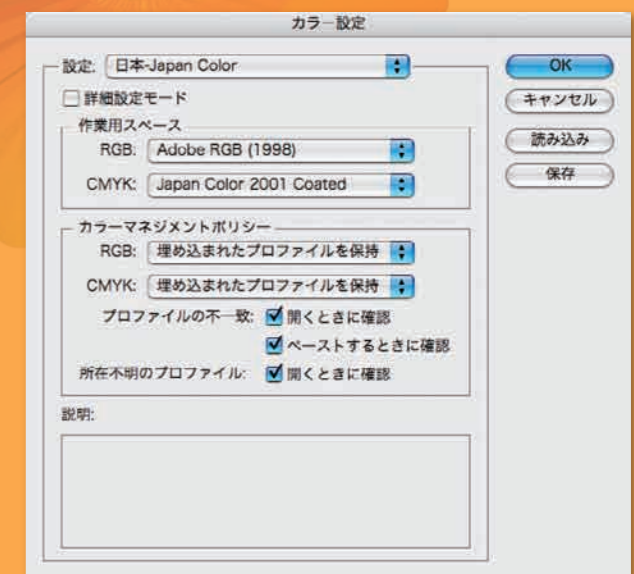
Adobe Illustrator CSなら…

Adobe Illustrator CS

一貫したカラー設定

カラーについてのコミュニケーションを円滑に行うため、制作フロー全体で一貫したカラー環境を構築することが重要です。

Adobe Creative Suiteでは、カラー環境がさらに整備され、アドビ製品間でのカラー設定を共有したカラーマネジメントが容易になりました。各アプリケーションのカラー設定ダイアログでプリセットを選択することにより、統一した色基準を適用することがきわめて簡単に行えます。Adobe Creative SuiteおよびAdobe Illustrator CSには、「Japan Color 2001」やJMPAカラーを参考にした「Japan Web Coated (Ad)」など、日本の印刷事情を考慮した色基準が標準で搭載されており、日本の商業印刷物制作に最適な「日本-JapanColor」というプリセットがあらかじめ用意されています。



カラー設定ダイアログボックス

制作

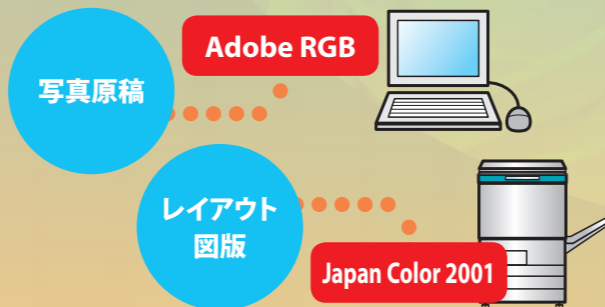
・ばらばらの色基準、都度確認



写真原稿などは主にRGBで処理し、図版などはCMYKの網点指定で作成しています。原稿はポジフィルムで評価し、仕上がりは色校正紙によって判断します。カラーマネジメントはしていません。

制作

・モニタによる確認、プリンタ校正



カラーマネジメントが基本になり、モニタ、プリンタでカラーの評価をします。書類にICCプロファイルを指定して運用します。

※EPSにはICCプロファイルを埋め込むことはできません。

システムや制作フローで、一貫したカラーマネジメントを行うことが重要です

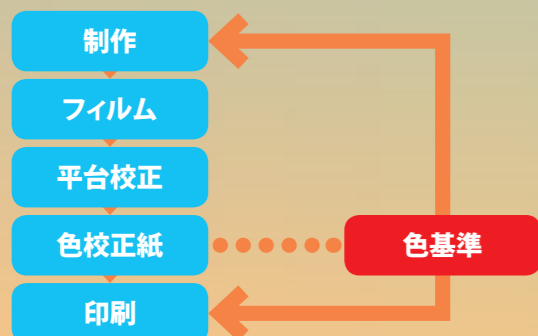
異なった色基準 → 標準的な色基準

標準的な色基準

Adobe RGB
Japan Color 2001
JMPA カラー

製版

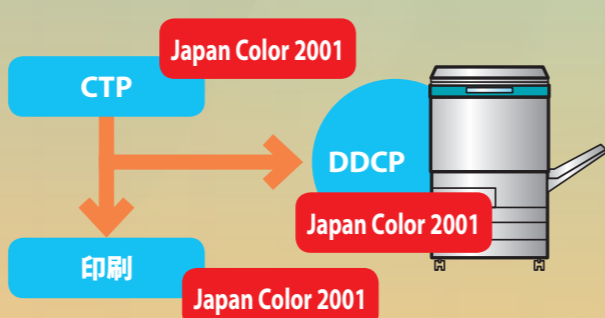
・色校正紙基準での運用



平台校正による色校正紙が色基準です。カラーは都度調整します。

CTP

・色基準の標準化とDDCP／プリンタ校正



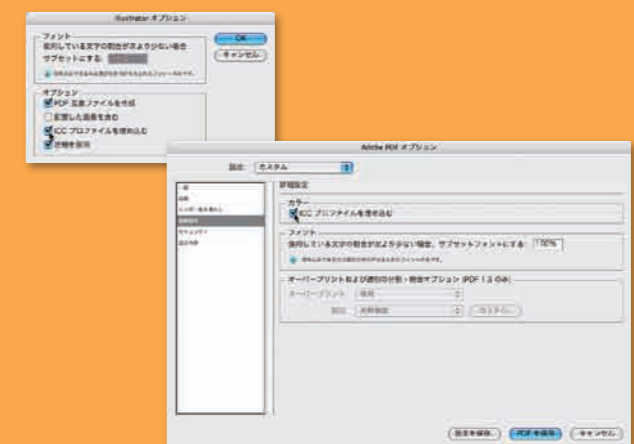
色基準を標準化し、DDCP／プリンタによる色校正を行います。

製版のカラーマネジメント

プリンタ／印刷のキャリブレーション

商業印刷の色基準: Japan Color 2001

雑誌広告の色基準: JMPAカラー



ICCプロファイルの埋め込み (上: Illustrator 書類保存、下: Adobe PDF 保存)

Digital Environment

フルデジタル制作環境へ：フォント環境

従来の工程では…

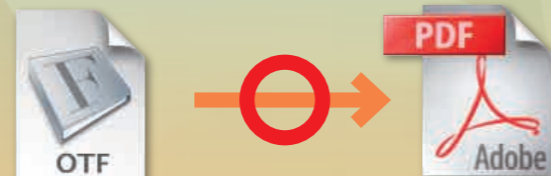
OCFフォント
・PDFへの埋め込み不可



OCFフォントでは、PDFにフォントを埋め込むことはできません。フォントがない環境でPDFを開くと代替フォントで表示、プリントされます。

フルデジタル環境では…

OpenType®
・PDFへの埋め込みが可能です

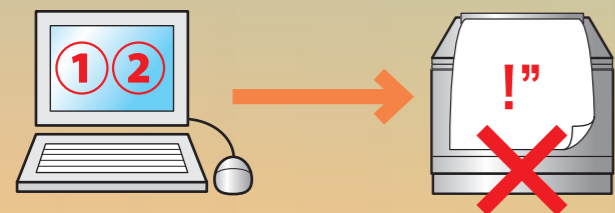


OpenTypeフォントは、PDFにフォントを埋め込むことができます。フォントが埋め込まれたPDFは、フォントがない環境でPDFを開いた場合でも、正しく表示、プリントされます。

※OCFフォント：Original Composite Fontの略で、和文フォント形式のひとつです。Mac OS XやWindowsでは使用できません。

プリンタフォント

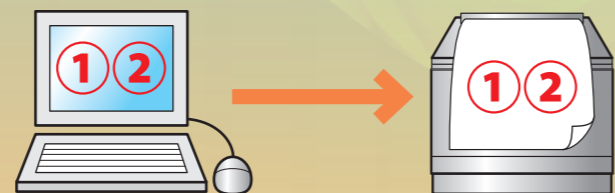
・和文フォントのプリントはプリンタフォントに依存します



プリンタフォントがないと正しくプリントされない場合があります。フォント名が同じでも、フォント形式やバージョンが異なる場合、正しくプリントされない場合があります。

プリンタフォント不要

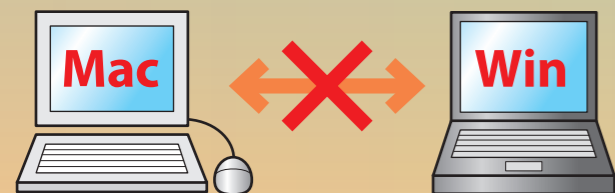
・プリンタフォントに依存しないオープンな制作環境の構築が可能



プリンタフォントなどのプリンタの環境に依存せず、ダイナミックダウンロードを利用して、作成したものを正しくプリントすることができます。異体字などの外字もそのままプリントすることができます。

クロスプラットフォーム

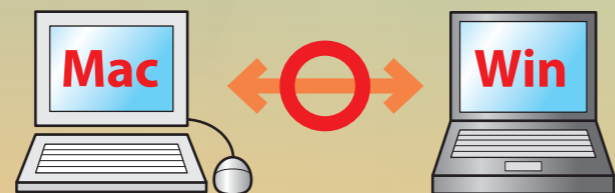
・MacintoshとWindowsで互換性はありません



OCFフォントやCIDフォントはMacintoshのみで利用できるフォント形式です。TrueTypeはMacintoshとWindowsで仕様異なる場合があります。旧バージョンのAdobe Illustratorでは、MacintoshとWindowsで、半角英数の扱いが異なっているためレイアウトが変更される場合があります。

クロスプラットフォーム運用が可能

・MacintoshとWindowsで完全に互換性を保持できます



OpenTypeフォントは、Macintosh、Windows共通のフォーマットです。アドビ製品はファイルの互換性が維持されますので、OpenTypeと組み合わせることで、クロスプラットフォームでの完全な互換性を維持できます。

OpenTypeのメリット

PDFへの埋め込みが可能

フォントがなくても表示、プリントOK

好みのフォントを気軽に利用可能

OpenTypeのメリット

プリンタフォントに依存しない制作環境

異体字など外字も正確にプリント

出力解像度制限なし

OpenTypeのメリット

クロスプラットフォームでの完全互換性

Windows制作／出力環境の構築が容易

作成したそのまま出力可能

Adobe Illustrator CSなら…

Adobe Illustrator CS

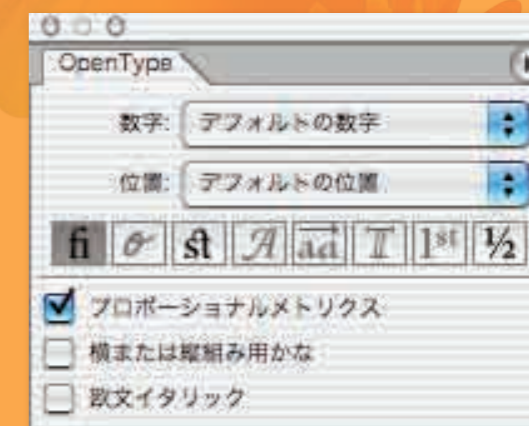
OpenTypeフルサポート

Adobe Illustrator CSには、OpenTypeフォントの高度なサポートが追加されています。

OpenTypeはさまざまなタイポグラフィ機能を持ち、例えば、最適な詰め処理などが行えます。

OpenTypeフォントに搭載されている豊富な字形への容易なアクセスにより、これまで処理が難しかった外字扱いの異体字をタイポグラフィに素早く活用することができます。

Illustrator CSでは、Macintosh®とWindows®の間での機能差はなく、共通の書類を利用することができます。OpenTypeフォントに完全対応したため、OpenTypeフォントを利用することで日本語の場合でも完全にテキストの互換性を保持することができるようになり、クロスプラットフォームで書類を共有することが可能になりました。互換性を保ちたい場合には、クロスプラットフォームで利用可能なOpenTypeフォントあるいは欧文Type 1フォントを利用します。



専用のOpenTypeパレット



字形パレットによる異体字の活用

詳しくは → 13

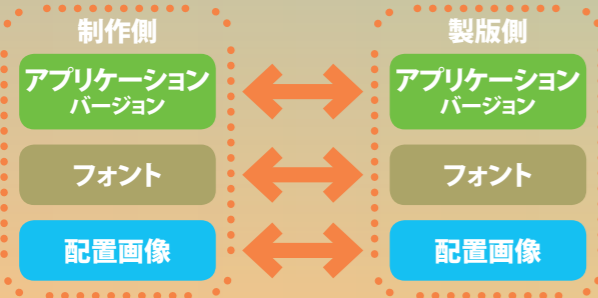
Digital Environment

フルデジタル制作環境へ：PDFワークフロー

従来の工程では…

入稿

- 制作側と製版側の環境を一致させる必要

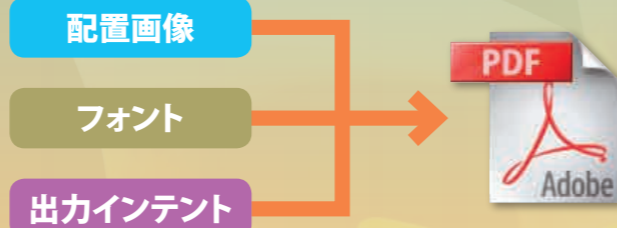


制作側と製版/印刷側で、アプリケーションおよびバージョン、フォント、ネイティブファイルと配置画像をすべて一致させる必要があります。

フルデジタル環境では…

PDF/X-1a入稿

- 厳密な入稿規定による安定化



PDF/X-1aでは、配置画像の埋め込み、フォントの埋め込み、印刷情報（出力インテント）の添付が厳密に規定されており、1ファイルに集約されます。

PDF/X-1a入稿のメリット

厳密な入稿規定による安定化

作成が容易

1ファイルに集約、扱いが容易

Adobe Illustrator CSなら…

Adobe Illustrator CS

PDF/X-1a

PDF/Xは、印刷用データとしてのISO（国際標準化機構）の規格として制定され（ISO15930）、PDFの運用上のガイドラインを示しています。PDF/XはPDF上で、印刷上のトラブルの原因となるカラー、フォントなどの諸設定の運用を制限し、円滑な印刷工程を実現するものです。PDF/X-1aは、PDF/Xの規格のうち、CMYKと特色をサポートしています。

Adobe Illustrator CSでは、Adobe Acrobat® 6.0 Professionalと組み合わせることでPDF/X-1aを書き出すことができます。



Illustrator CSから書き出したPSをAcrobat DistillerでPDF/X-1aに変換

詳しくは → 23

校正

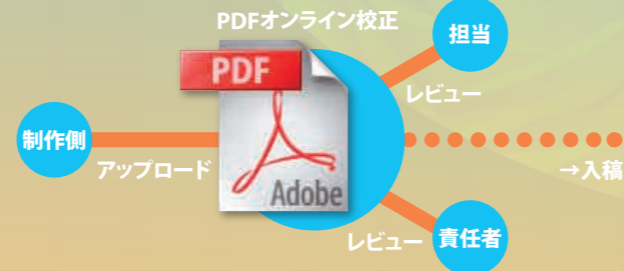
- 校正紙のやり取りによる時間、コスト



校正紙のやり取りは、時間、コストのかかる工程です。校正時のミスも起こりやすくなります。

デジタル校正

- 校正紙の行き来の減少



Adobe PDFを活用したデジタル校正ならメールやファイルサーバなどを利用して時間やコストを圧縮できます。フルデジタルで校正することにより、校正ミスを少なくすることもできます。

デジタル校正のメリット

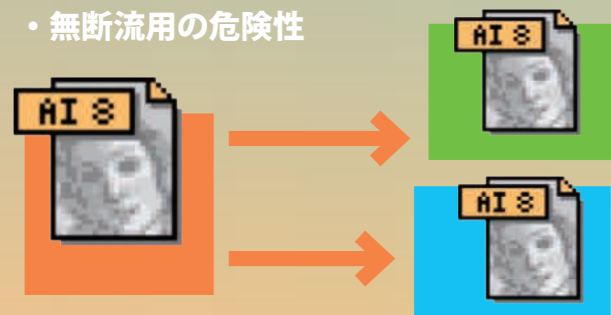
校正紙の行き来の減少

校正ミスの減少、事故防止

校正の一元化

著作権

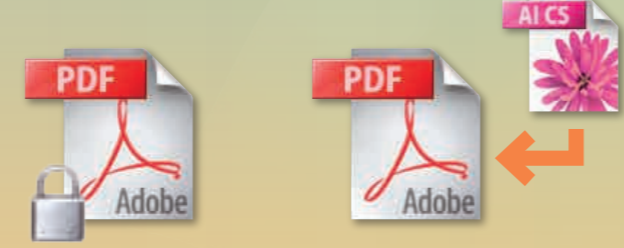
- 無断流用の危険性



複製が容易なデジタルデータでは、原稿として渡したデータから無断で再利用、二次利用など流用される危険を無視できません。メールなど、インターネットを介したデータのやり取りも常に傍受の危険にさらされています。

デジタル権利マネジメント

- ファイル単位でのセキュリティ



Adobe PDFのセキュリティ機能を利用すると、ファイル単位で強力なセキュリティをかけることができます。万が一のデータ流出の場合でも安心です。Adobe PDFは、ファイル内にオリジナルデータを埋め込むこともできます。

PDFによるセキュリティのメリット

ファイル単位でのセキュリティ

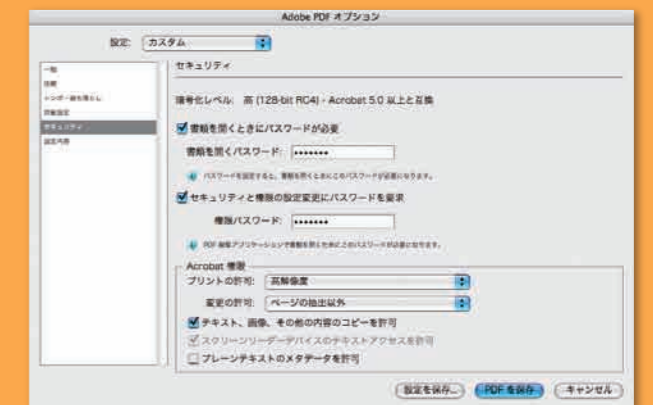
体裁を保持した配布が容易

オリジナルデータの埋め込みが可能

PDFセキュリティ

Adobe Illustrator CSで作成された書類に、PDFセキュリティをかけて書類の流用、改ざんを防止することができます。

さらに、Adobe Acrobatを利用することで、PDFの内部にネイティブファイルなどオリジナルデータを埋め込み、全体にPDFセキュリティをかけてファイルを安全に送付することが可能です。



Adobe Illustrator CSからPDF保存時にセキュリティをかけられます

ベクトルツールならではの優れた描画力

以前のバージョンのIllustratorでは…

- ペンツールでの描画が基本で、思い通りに描画するためには習熟が必要。
- グリッドを作成するためにはパスを複製し均等に配置を繰り返すなどの手間がかかった。
- パスファインダの結果を修正することが困難。パスファインダをやり直した方が早い場合が多かった。



ここちよい生活を提案する
新しいCSSTYLEの誕生です

Adobe Illustrator CSを使うと…

自由度の高いツール群がクリエイティブパワーを刺激します

Adobe Illustrator CSでは、ペンツールや鉛筆ツールだけでなくシンプル描画ツール、グリッドツール、変形ツール群などが用意され、柔軟な操作性を実現し、スキルに合わせた自由度の高いデザインが可能です。パスファインダ機能もより編集しやすくなりました。

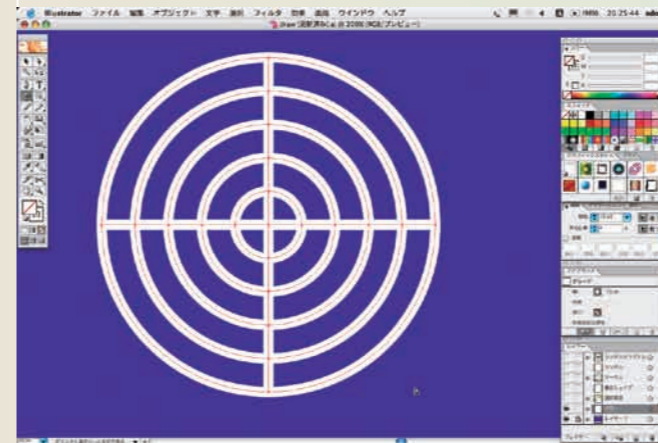
手早く線を描いたり、円弧を作成したり、グリッドを引きたいという作業が、直線ツール、円弧ツール、長方形グリッドツール、同心円グリッドツールを使うと、ワンクリックでできます。これらのツールには、特定の描画作業には便利な機能が搭載されています。

緻密なデザインアプローチも、大胆なデザインも思いのままです

変形パレットや整列機能などによる正確なデザインはもちろんのこと、Adobe Illustrator CSでは、より大胆でダイナミックなデザインを簡単に実現できます。パスファインダによるオブジェクトの加工がより柔軟に扱えるようになり、リキッドツールを利用すると、オブジェクトに自由度の高い変形効果をあたえることができます。



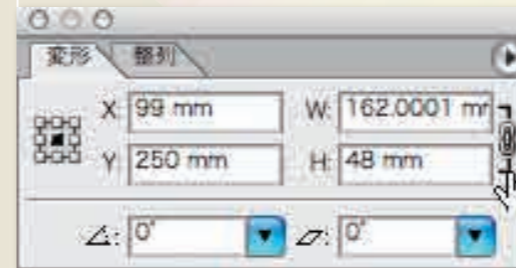
直線ツール、曲線ツールやグリッドツール



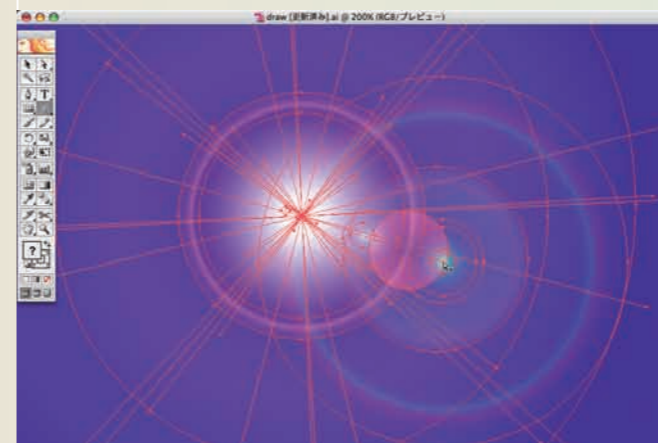
同心円グリッドツールによる描画



形状モードが追加されたパスファインダパレット



縦横比固定機能が追加された変形パレット



フレアツールによる描画

新しい描画ツール

柔軟性に富む新しいツールを使って、線、円弧、グリッドなどよく使われるオブジェクトをペンツールを使わずに描くことができます。

手早く線を描いたり、円弧を作成したり、グリッドを引くといった作業が、新しく搭載された直線ツール、円弧ツール、長方形グリッドツール、同心円グリッドツールを使うと、ワンクリックでできます。

直線ツールや円弧ツールを使うと、他のドローツールと同様の操作性で直線や円弧を素早く簡単に描くことができます。線を描くのは簡単で、閉じていない円弧はキャプションの線や方向を示すときに使うとよいでしょう。

長方形グリッドツールを利用すると、瞬時に背景グリッドを作成したり、複雑な図を容易に作成したいときに利用できます。ユーザが指定したパラメータを使って放射状の線や同心円を描く同心円グリッドツールを使うと、標的やレーダースクリーンなどを短時間に作成できます。グリッドの描画時に、直観的なキーボードショートカットを使って分割線の数を調整できます。

パスファインダの強化

単純なシェイブを組み合わせて複雑な形を作ることは、デザインの基本と言えますが、Adobe Illustratorは、こうしたエレメントを容易に作成することができます。

Adobe Illustrator CSでは、さらに直観的に使えるオプションを加えてパスファインダパレットを更新しました。しかも、複合シェイブをライブにすることで、より柔軟に、より容易に編集できます。

パスファインダパレットの新しい「形状エリアに追加」、「型抜き」、「交差」、「中マド」オプションでは、複合シェイブを構成する個々のエレメントを編集可能な状態に保ったまま、シェイブを組み合わせたことができます。この効果はライブ効果に使用されているものと同じで、複合シェイブはコンポーネントエレメントを保持しつつシェイブの外観を変更します。

変形パレット

プロの要求を満たす正確なデザイン、レイアウトを可能にします。数値で座標値や大きさを調整できるだけでなく、数値ボックス内で簡単な四則演算や単位換算を実行することもできます。Adobe Illustrator CSでは、縦横比を固定した変形が可能になり、さらに使いやすくなりました。

リキッドツール

7種類のリキッドツールで、デザイン内のテキスト、画像、およびその他のオブジェクトを簡単かつインタラクティブにパスの変形をすることができます。ツールのブラシ風インタフェイスを使い、ちょっとした変更から極端に強調された変形まで自由に効果を作成することができます。

フレアツール

フレアツールでは、アートワークにリアルなレンズフレアを追加することができます。人工的な画像に最後の仕上げをほどこしたり、劇的な光の効果を強調するときには、フレアにより画像を華やかにすることができます。フレアはベクトルオブジェクトなので、いつでも編集することができ、どのような解像度でもきれいに見ることができます。

ベクトルグラフィックを超えた表現力

以前のバージョンのIllustratorでは…

- 文字縁処理など複雑な処理には、オブジェクトを重ねるなどの工夫が必要で、修正が大変だった。
- 透明効果など、より見栄えのする効果を実現するには Adobe Photoshop が必要。
- 全体を変形させるような複雑な形状変化には非常に手間がかかった。



Adobe Illustrator CSを使うと…

ベクトルグラフィックの自由度はそのままに、より高品位なグラフィックを作成可能です

アピアランスを利用すると、編集が容易なベクトルグラフィックの特性はそのままに、効果や透明機能も組み合わせてはるかに高品位なグラフィックを容易に実現できるようになります。もちろん、一度作成した見栄えはライブラリ化して再利用も簡単にいきます。

透明機能を使うと、表現の幅が飛躍的に広がります。図形を半透明にしたり、複数の図形を重ねてより複雑なグラデーションを作成できます。描画モードも合わせて活用することで、いままでは Adobe Photoshop でしかできなかったような表現も可能になりました。

より大胆でダイナミックなデザインを簡単に実現できます

3D効果やワーブ効果など、多彩な空間表現の広がりをよりダイナミックに演出できます。透明機能や落書き効果を始め、アピアランスやグラフィックスタイルを活用することで素早く効果を適用することももちろんのこと、何度でもトライ＆エラーで試すことができる気軽さがクリエイティブを後押しします。

徹底したシミュレーションを行える気軽さがデザインの精度を高めます

徹底したシミュレーションを繰り返すことができるベクトルグラフィックの柔軟性。ライブ効果、ワーブ効果、エンベロープ機能など思いついたことを気軽に試せることが、デザインの精度を高めています。

アピアランス

透明機能やライブ効果など、ベクトルグラフィックの編集のしやすさはそのままに、常識を超えた表現力を発揮します。スタイルを使ってよりスピーディに制作することも可能です。

アピアランスパレットでは、線や塗りの設定を追加できます。個別にカラーや線幅などの設定したり、上下を入れ替えることができます。

透明

使い慣れた Adobe Photoshop と同等の操作性で Adobe Illustrator CS の表現力を飛躍的に高めることができます。図形やパスを選択して、透明パレットで不透明度のスライダをスライドします。

描画モードを利用すると、背景の色が透けて混ざり合った微妙な色合いの表現が可能です。不透明マスクなどの高度な設定も可能です。

ライブ効果

効果メニューから適用した効果は見栄えだけを変更し、パスは変更しません。アピアランスパレットでは、効果の属性をあとからいつでも編集することができます。

3D効果

オブジェクトのパス表現は、印刷物に奥行きを与える伝統的な方法です。新しい Adobe Illustrator CS を使えば、ロゴ、パッケージデザイン、ビデオ作品のタイトルなど、どんな制作物にも3Dエレメントを簡単に追加できます。新しい3D効果を使って、文字や描画したその他の形状を3Dオブジェクトに変換し、それらを空間の中で回転させたり、ライティングを自由に変えたりすることができます。オリジナルの2Dオブジェクトを変更するとそれが自動的に3Dオブジェクトにライブで反映されます。押し出し、軸回転、ベベル、ライティング、マッピングが可能です。

ワーブ効果

Adobe Illustrator CS には、オブジェクト、テキスト、画像に適用できる15種類のカスタマイズ可能なワーブ設定が搭載されています。それぞれのワーブ効果は、ユーザが調整できる多様なオプションを備えています。また、便利なプレビューオプションで変形状態を確認前に確認することができます。

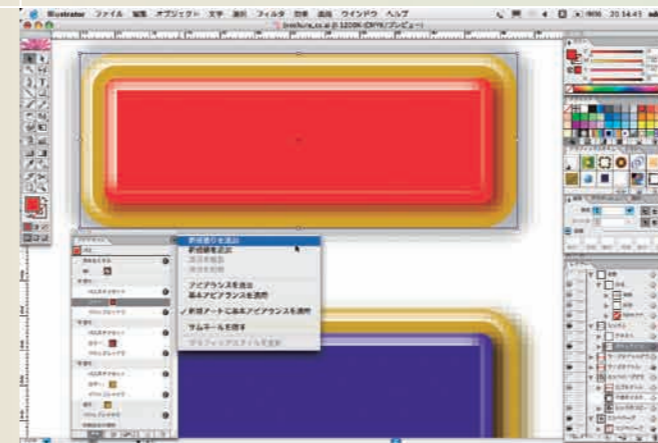
落書き効果

ライブ落書き効果を使って、ベクトルアートワークに手書き風の素朴なタッチを加えましょう。アートワークにかわいらしさを与えたいときに便利な落書き効果は、堅苦しいデザインをカジュアルで親しみやすいものに変えたり、画像のマスキング、重ね塗りしたようなイラストを作成、斜交平行線の陰影の追加、動きを表現する線の作成などに使えます。

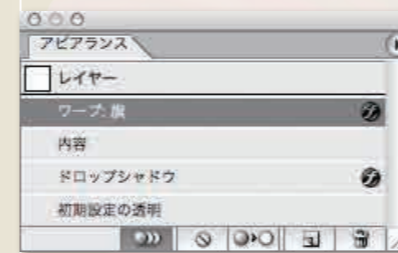
エンベロープ

エンベロープ機能を使用すると、テキスト、グラフィック、画像を歪ませたり、引き伸ばしたりあらゆる編集を行うことができます。

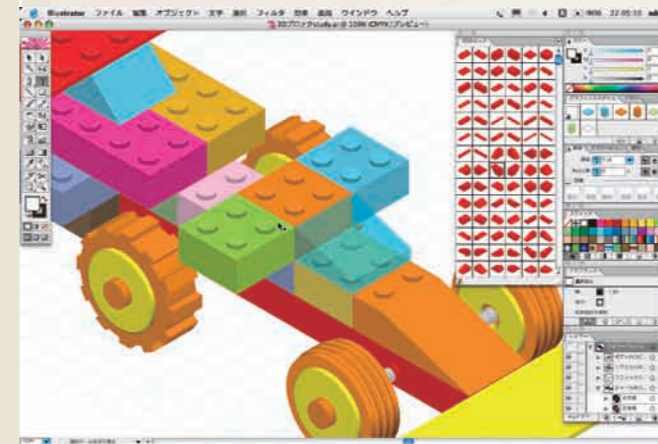
単純なものから複雑なものまで、ユーザが描くすべてのパスは、他の Illustrator オブジェクト、テキスト、画像を変形するためのベースとして使用することができます。パスをエンベロープとして使用することにより、画像に奥行き感を加えることができ、複雑なデザインができるようになります。さらに、エンベロープ内のシェイプを編集できることで、コンテンツの変更を続けることができます。



アピアランスによる描画



アピアランスパレット



3D効果による描画



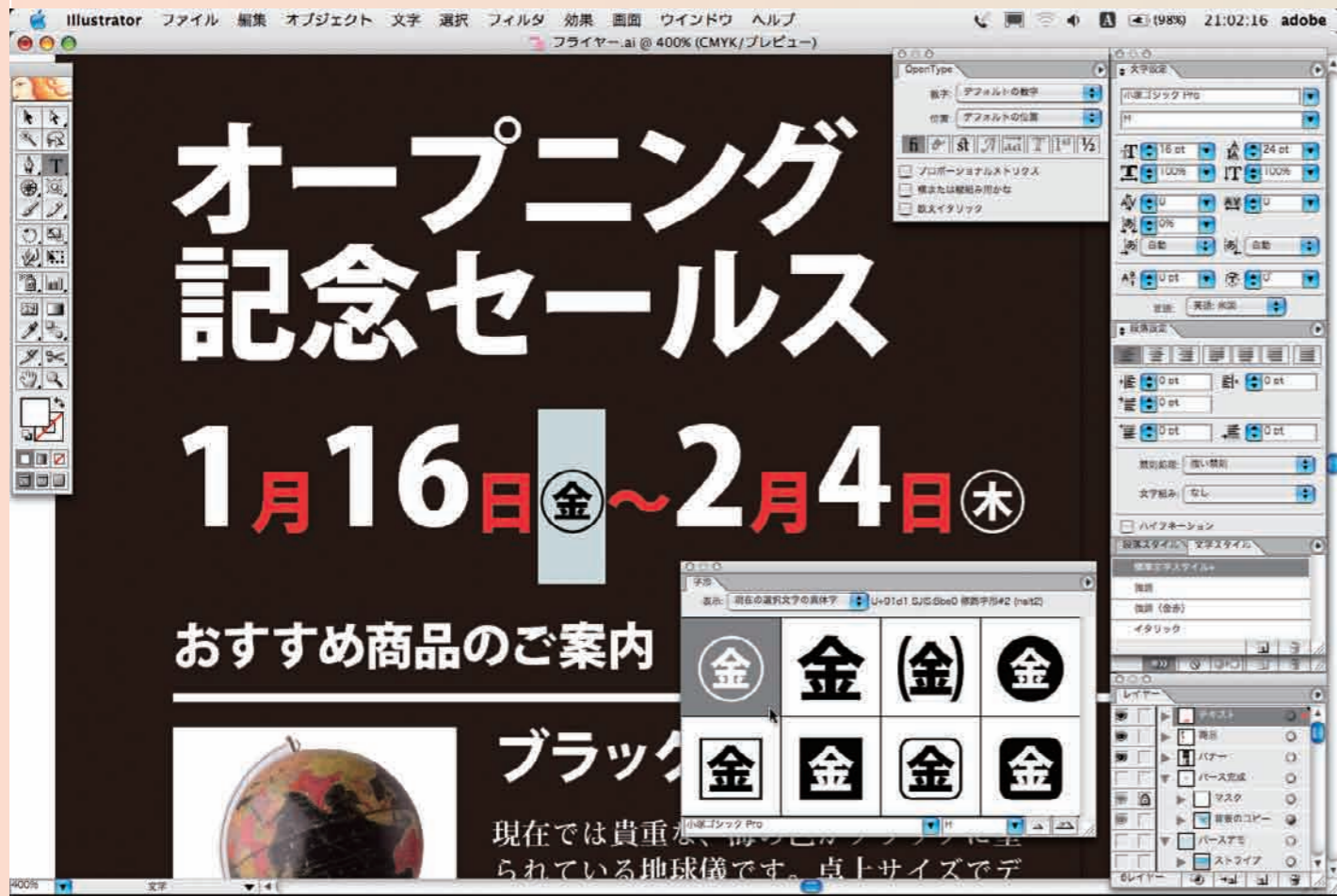
エンベロープによる変形

Productivity

刷新されたタイポグラフィ

以前のバージョンのIllustratorでは…

- OpenTypeを十分に使える環境が整わなかった。
- 異体字は出力時の文字化けの不安があり、特殊なフォントの導入や作字の必要があった。
- 仮名専用書体や和欧混植をする際に、必要な箇所を都度選択する手間がかかり非効率だった。



Adobe Illustrator CSを使うと…

大幅に刷新されたタイポグラフィ機能でデザインの幅を広げます

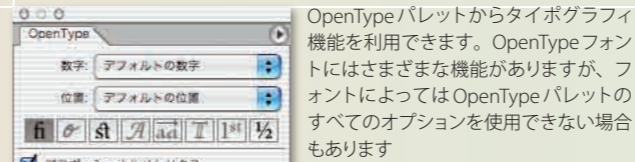
Adobe Illustrator CSには、再設計された新しいテキストエンジンと将来を見越した機能が搭載され、待望のOpenTypeフォントのフルサポートや文字スタイル/段落スタイルなど、かつてないほど簡単に、美しく洗練されたタイポグラフィを実現できます。Adobe Illustrator CSを使えば、これが美しいタイポグラフィのための必須ツールであることをすぐに理解いただけるでしょう。

和欧混植やかな専用書体をフルに活用できます

合成フォントを利用すると、異なるフォントを要素として組み合わせて、1つのフォントとして使用することができます。欧文フォントと日本語フォントの組み合わせや、かな専用書体を組み合わせてより柔軟なタイポグラフィを実現できます。

高度な日本語組版をスムーズに実現します

Adobe Illustrator CSでは、日本語組版に関して大幅に強化され、さらに洗練されています。例えば、文字組みアキ量設定、文字揃え、禁則処理、縦中横、割注をカスタマイズすることができますので、より柔軟な処理が可能です。また、文字ツメ量を調整して文字詰めを調整することができます。その他にも、日本語テキストのインライン入力など、多数の機能拡張がなされています。



OpenTypeパレットからタイポグラフィ機能を利用できます。OpenTypeフォントにはさまざまな機能がありますが、フォントによってはOpenTypeパレットのすべてのオプションを使用できない場合もあります。

OpenTypeフォントの最適な詰め処理

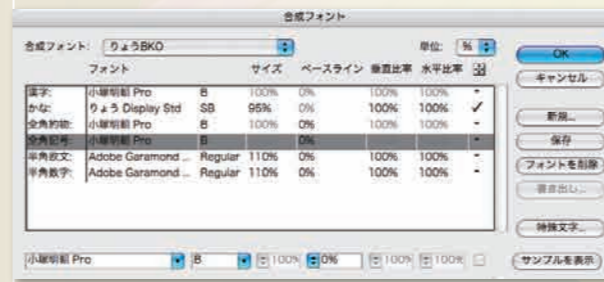
アドビのオリジナル書体は、
ベタ組み

アドビのオリジナル書体は、
プロポーショナルメトリクス



字形パレットで、異体字の活用もスムーズ

合成フォントの設定

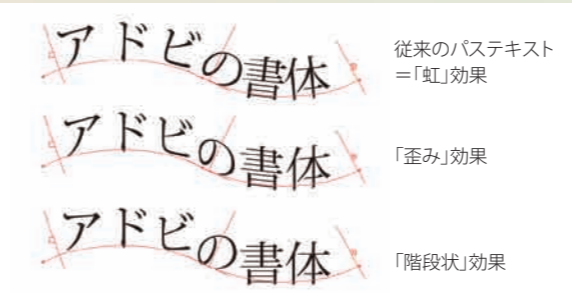


あどびのオリジナル日本語書体は美

合成フォント例：小塚ゴシックB+りょうSB

OpenTypeフォントのかな専用書体も増

合成フォント例：リュウミンB-KL+秀英3号M+ Adobe Garamond Pro Regular



美しく洗練されたタイポグラフィ

Adobe Illustrator CSには、再設計された新しいテキストエンジンと将来を見越した機能が搭載され、待望のOpenTypeフォントのフルサポートや文字スタイル/段落スタイルなど、かつてないほど簡単に、美しく洗練されたタイポグラフィを実現できます。

OpenType

Adobe Illustrator CSには、OpenTypeフォントの高度なサポートが追加されています。

OpenTypeはさまざまなタイポグラフィ機能を持ち、例えば、最適な詰め処理などが行えます。

OpenTypeフォントに搭載されている豊富な字形への容易なアクセスにより、これまで処理が難しかった外字扱いの異体字をタイポグラフィに素早く活用することができます。また、MacintoshとWindowsで共通のフォントファイルを使用するため、テキストのリフローについて心配することなく、クロスプラットフォームを実現することができます。

合成フォント

合成フォントを利用すると、異なるフォントを要素として組み合わせて、1つのフォントとして使用することができます。欧文フォントと日本語フォントの組み合わせや、かな専用書体を組み合わせてより柔軟なタイポグラフィを実現できます。かな文字のサイズを調整して小仮名処理を設定したり、1文字ごとのカスタマイズも可能です。設定した合成フォントは外部ファイルに書き出せるので、グループ内での共有も可能です。

日本語組版に対するサポートの強化

Adobe Illustratorは、多くの国々でデザインの標準になっており、異言語バージョン間でのファイル共有のサポートにより世界各国でデザインを共有できる環境が以前から整っていました。Adobe Illustrator CSでは、日本語組版に関して大幅に強化され、さらに洗練された制御を追加しています。例えば、最適な文字間隔を確定するためにカスタマイズ可能な文字組みアキ量設定や、日本語の句読点を扱う編集可能な禁則処理規則セット（行頭または行末に置けない文字や分割禁止文字などのリスト）が含まれます。その他にも、縦中横、割注、日本語テキストのインライン入力など、Adobe Illustratorには多数の機能拡張がなされています。

新しいパス上文字オプション

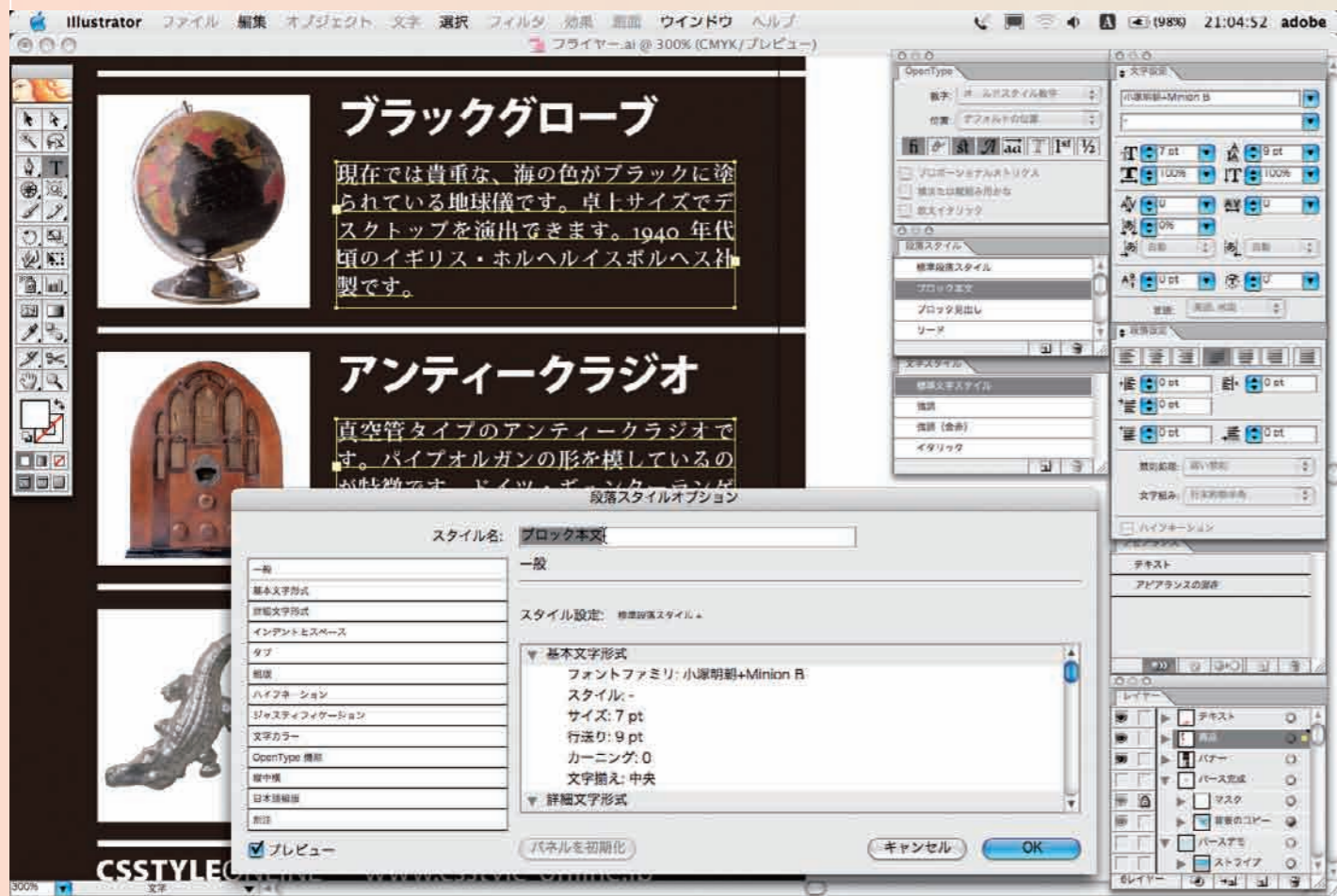
Adobe Illustrator CSはユーザーがパス上の文字をデザインするオプションを拡張しました。文字メニューの新しいパス上文字サブメニューは5種類のプリセット整列オプションを提供し、パス上文字オプションダイアログボックスにはパスと相対的にテキストの位置を制御する追加オプションが含まれます。Adobe Illustrator CSからは、パステキストを使ったプロジェクトでも、わずかな手間多彩な外観を作ることができます。

Productivity

効率的なタイポグラフィの運用

以前のバージョンのIllustratorでは…

- テキストの設定はその都度ひとつひとつ繰り返す必要があった。
- スポイトツールによるスタイル属性のコピーしかできなかった。
- 多国語を使用した書類作成が困難。



Adobe Illustrator CSを使うと…

文字／段落スタイルによって作業を大幅に効率化できます

Adobe Illustrator CSの新しい文字スタイルと段落スタイルを使うことによって、テキストの書式を簡単に設定できます。文字スタイルや段落スタイルを使用すれば、文字書式を素早く設定でき、テキストのデザインを統一することで高い品質を維持できます。また、複数の書式設定を1つのグループとして定義することができるため、作業時間を大幅に短縮できます。ドキュメントのデザインに応じて、いくつでもスタイルを定義し使用することができます。文字スタイルと段落スタイルには複数の書式を組み合わせることができ、ごく単純なものから非常に凝ったものまで、その内容は自由です。また、テンプレート書類や他のドキュメントから文字スタイルと段落スタイルを読み込むことができるため、デザインを素早く統一することができます。

ユニコードをサポートし、多国語対応のドキュメント制作が容易になります

Unicodeに対応したことにより、多国語が混在したドキュメントやタイポグラフィを作成することが容易になりました。Adobe Illustrator CSには、すぐに活用できるように欧文、日本語、中国語、韓国語のOpenTypeフォントファミリーが付属しています。

段落スタイルと文字スタイル

新しい段落スタイルや文字スタイルを使うことによって、テキストの書式を簡単に設定できます。段落スタイルや文字スタイルを使用すれば、文字書式を素早く設定でき、テキストのデザインを統一することで高い品質を維持できます。また、複数の書式設定を1つのグループとして定義することができるため、作業時間を大幅に短縮できます。

カスタムタブリーダー

Adobe Illustrator CSでは、タブリーダーのドットの種類やパターンをカスタマイズできます。あるいは、独自のグラフィックを作ってタブリーダーとして使用することもできます。さらに、Adobe Illustrator CSでは設定できるタブの数が無制限になりました。

多国語対応

Unicodeに対応したことにより、多国語が混在したドキュメントやタイポグラフィを作成することが容易になりました。Adobe Illustrator CSには、すぐに活用できるように欧文、日本語、中国語、韓国語のOpenTypeフォントファミリーが付属しています。

WYSIWYGのフォントメニュー

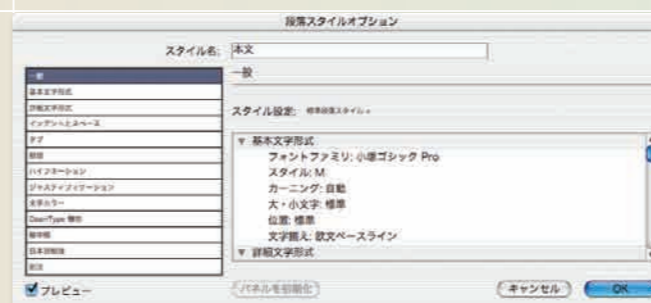
Adobe Illustrator CSのフォントメニューには、インストールしたフォントが各フォントフェイスのデザインで表示されるので、視覚的に確認しながら使いたいフォントを選択できます。いろいろなフォントを試してみる操作もより高速で直接的になり、それぞれのフォントが使用するフォーマットも一目わかります。必要に応じて、このオプションをオフにすることもできます。

所在不明なフォントを画面上でハイライト

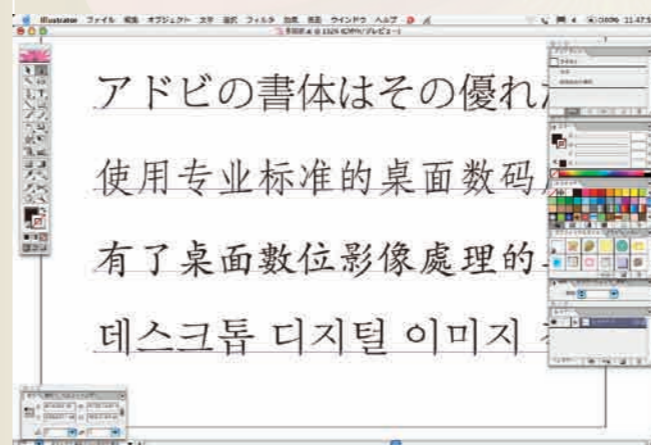
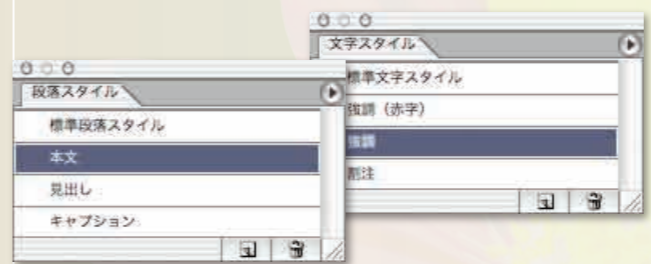
Adobe Illustrator CSは、ドキュメント内で使用されているけれどもコンピュータシステム上で利用できないフォントをハイライトすることができますので、ユーザはすぐに問題に気づき修正することができます。フォントの検索置換コマンドを使い、所在不明なフォントをシステムにインストールされているフォントに置き換えるか、所在不明なフォントを確認してそれをインストールすることができます。

改良されたテキストリンクと削除

テキストのリンク機能にも柔軟性が付加されました。パス上のテキストを含む任意のテキストエリアを他の任意のテキストエリアにリンクできるため、1つのエリアからパスへ、そして次に2番目のエリアへとテキストをフローさせることができます。さらに、中に含まれるテキストを削除することなくリンクされたテキストブロックを削除できるようになりました。テキストは前のボックスにフローします。また、文字ツールでクリックした後、テキストを入力しなかったためにできてしまった空のテキストブロックを自動的に削除することが可能になり、ドキュメント上の不要な要素を減らすことができます。



段落スタイル／文字スタイルオプションで、書式設定を修正、更新することができます



上から日本語、簡体字、繁体字、ハングル



フォントプレビューをオンにするとフォント形式も区別され、アイコンで表示されます

Productivity

シンボル／ライブラリによる作業の効率化と自動処理

以前のバージョンのIllustratorでは…

- 複製の繰り返しで作成する必要があり、修正には手間がかかった。
- 繰り返し使用するアートワークの管理が大変で、グループでの共有にも工夫が必要だった。
- 自動組版などの処理には、プラグインの導入／開発が必要。



Adobe Illustrator CSを使うと…

繰り返し利用されるグラフィックアイテムの管理もスムーズです

Adobe Illustrator CSで搭載されたシンボル機能を使うと、繰り返し利用される画像の処理を大幅に効率化できます。ほとんどのグラフィックをシンボル化でき、シンボルの更新機能を活用するとグラフィックの一括更新が可能です。画像内の各シンボルインスタンスは、オリジナルのシンボルを参照するので、デザイン変更の管理が容易になり、ファイルサイズを小さく保ちます。

ライブラリ化によって作業効率化と納期短縮を実現します

グラデーションやパターンなどのスウォッチ、グラフィックスタイルやシンボルなどはライブラリ化でき、素早く呼び出してさまざまな書類に適用することができます。またデジタルデータのメリットを活かしてグラフィックアイテムを再利用することも容易です。

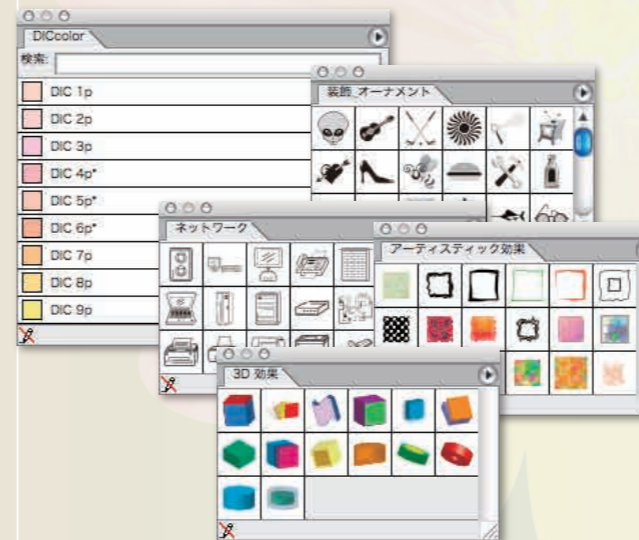
スウォッチパレットはカスタムのカラーライブラリやロゴ、会社の住所など頻繁に使用するものを登録して再利用できます。Adobe Illustrator には、あらかじめ多数のスウォッチが用意されています。カラーやグラデーション、パターンなどはスウォッチに登録しておくことが容易です。

生産性が重視される現場において、抜群のパフォーマンスを発揮します

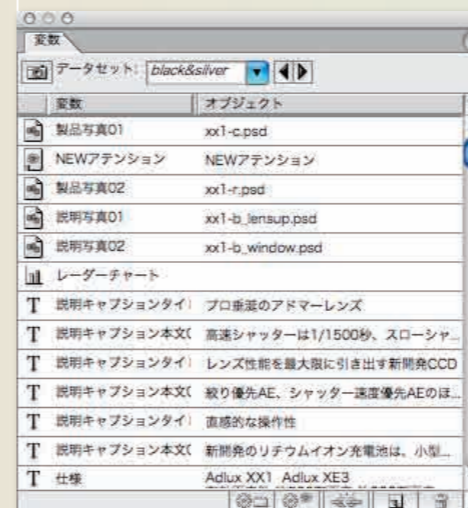
Adobe Illustrator CSでは、さまざまな方法で単純な繰り返し作業を自動化し、クリエイティブな作業に多くの時間をかけることができます。大量のグラフィックを一括で処理できるアクション機能や Adobe Illustrator CS から強化されたスクリプトを活用することで自動処理を実現できます。さらに、変数機能を利用するとデータベースと連動した処理が可能です。



シンボルとシンボルライブラリ



Adobe Illustrator CS に付属する各種ライブラリの一例



変数パレット

シンボル

シンボル機能により、複雑なデザインにおいてもファイルサイズを簡単に小さく保つことができます。画像内の各シンボルインスタンスは、オリジナルのシンボルを参照するものであり、デザインの変更の管理が容易になり、ファイルサイズを小さく保ちます。シンボルを変更すると、その派生形であるインスタンスはすべて自動的に更新されます。また、この強力な機能は、Web 向けのデザインはもちろん、設計図や地図のような複雑なアートワークでも機能し、パフォーマンスの向上に非常に役立ちます。

シンボルの定義と操作は非常に簡単です。Adobe Illustrator で作成したアートワークは、描画されたグラフィック、テキスト、画像、またはそれらの組み合わせを含め、すべてシンボルとして保存できます。

Adobe Illustrator は、シンボルライブラリもサポートしますので、複数のドキュメントでシンボルを共通に利用することができます。

ライブラリ

シンボル、ブラシ、グラフィックスタイルおよびスウォッチのライブラリを使用して、デザイン作業を短縮できます。

Adobe Illustrator には、豊富なライブラリがあらかじめ用意されています。複数のライブラリを開き、その中から必要なアイテムを選択できます。また、ライブラリを新規に作成することもできます。

Adobe Illustrator CSからは、スタイル、スウォッチ、ブラシ、シンボルの各ライブラリに対応するパレットからのメニューから「ライブラリを開く」と「ライブラリを保存」コマンドを選択して直接開いたり保存したりできます。

スクリプトによる制御

Adobe Illustrator CSではスクリプティングを完全サポートしています。JavaScript、AppleScript、または Windows Visual Basic などのスクリプト言語を使って、実質的に Adobe Illustrator のすべての機能を利用することができるスクリプトを記述することができます。どのように利用するにしても、スクリプトは繰り返しをとまらぬ作業を自動化する強力なツールです。

データ駆動型グラフィック

Adobe Illustrator CSは、実際のデータと情報デザインとを切り離し、多数のデザインバリエーションを自動作成することができる貴重なツールです。

名刺のテンプレートを作成している場合や地域により価格が異なる全国チェーン店のチラシをデザインしている場合、あるいは各個人用にデータをカスタマイズしたダイレクトメールを作成している場合など、どんなときでも、Adobe Illustrator CSを使えば、洗練されたデザインを実現しつつ、しかも一貫した方法で制作プロセスを自動化することができます。変数として定義したキーエレメントを持つテンプレートをデザインして仮のデータセットを作成すれば、クライアントに様々なサンプルを見せられます。そして、デザインの承認が得られたら、自分でスクリプトを書くかプログラマに依頼して ODBC 互換ソースからのデータで変数を置き換え、それぞれのデータの組み合わせごとに別々のアートワークファイルを作成することができます。

アートワーク内のエレメント画像、テキスト、グラフ、描画オブジェクトなどを、データベースのフィールドにリンクできる変数として指定します。データセットを使い、テンプレートデザインのバリエーションをプレビューすることができます。変数とスクリプトの組み合わせにより、瞬時にバリエーションを大量に生成したり、リアルタイム印刷を可能にします。

Productivity

操作性の向上と習熟の容易さ

以前のバージョンのIllustratorでは…

- さまざまな設定を書類を作成するたびに設定するのは大変。
- 大量のオブジェクトやレイヤーを管理するのが大変。選択するためにはロック機能を多用していた。
- 新しい機能を使いたいけれど、使い方がわからない。



Adobe Illustrator CSを使うと…

書類の設定を最適化し、素早く適用できます

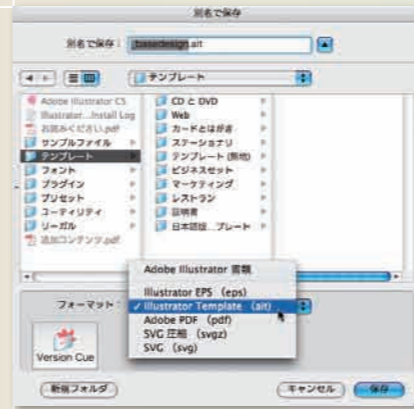
Adobe Illustrator CSのテンプレートファイルを利用すると、アートボードのサイズ、ガイド、スウォッチやシンボル、段落スタイルなどを素早く設定でき、書類のデザインを統一できます。

コンテンツの充実

Adobe Illustrator CSでは、テンプレートやライブラリ、フォントやストックアートが充実しているだけでなく、チュートリアルも豊富に用意されています。豊富なコンテンツには、スタートアップ画面から素早くアクセスすることができます。

オブジェクトの操作性が向上しています

レイヤーやオブジェクトを分かりやすく管理できます。レイヤー機能や選択機能が充実し、直観的にすばやく目的のオブジェクトにアクセスでき、作業効率を向上できます。



テンプレートとして保存

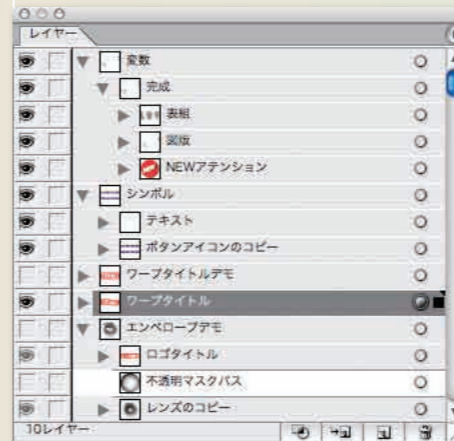


スタートアップ画面



自動選択パレット

レイヤーパレットでの操作。レイヤーの階層化、オブジェクトの選択が可能



ファイルをテンプレートとして保存

Adobe Illustrator CSにはテンプレートファイル形式が追加され、新しいプロジェクトの土台になる完成されたデザインを簡単に使えるようになりました。特に、過去のプロジェクトと全体的なデザインはそれほど変わらないが、コンテンツに変更があるプロジェクトではテンプレートを使うと便利です。例えば、あるクライアントの資料や広告で必ず使用されるアートボードのサイズ、スウォッチ、文字や段落スタイル、シンボル、ガイド、およびその他のエレメントが含まれたテンプレートを作成することができます。

スタートアップ画面

Adobe Illustrator CSを初めて起動したときに表示されるスタートアップ画面から新しいプロジェクトを始めることができます。また、チュートリアルを始めとする無料提供のコンテンツにアクセスし、Adobe Illustrator CSの新機能を習得することができます。

プロがデザインした新しいコンテンツの同梱

定型プロジェクトにすぐ取りかかれるように、Adobe Illustrator CSにはプロがデザインした実用的な200種類以上のテンプレート(日本語版テンプレートは50種類)が用意されています。テンプレートは、多様なデザインアイデアを提供するだけでなく、カスタムサイズのアートボード、レイヤー、スタイル、スウォッチ、シンボルなどが含まれ、新規ユーザーもこれらを利用して新しいデザインテクニックを学べます。さらに、100種類以上のOpenTypeフォントとプロフェッショナル向けのスウォッチライブラリとシンボルライブラリが提供されます。これらのコンテンツには、新しいスタートアップ画面から簡単にアクセスできます。

自動選択ツールとその他選択機能の強化

作成するイラストの種類にかかわらず、画像の中からオブジェクトを選択する操作は作業中何度も繰り返し行います。自動選択ツールを使うと、同じ属性を持つオブジェクトの範囲を選択できます。例えば、黄色で塗りつぶされたオブジェクト全部、特定のブレンドモードを使用しているオブジェクト、あるいは、1から3ポイントの線幅が適用されたオブジェクトを選択することができます。直観的なパレットにより、選択されたオブジェクト範囲のコントロールは容易です。選択範囲メニューは、選択範囲を直接保存、読み込みをしたり、他のオブジェクトの背面に隠れているオブジェクトを選択することができます。

強化されたレイヤー機能

レイヤーを階層化することができ、すべてのオブジェクトを確認することができます。また、レイヤーパレットを使って素早くダイレクトに選択することができます。

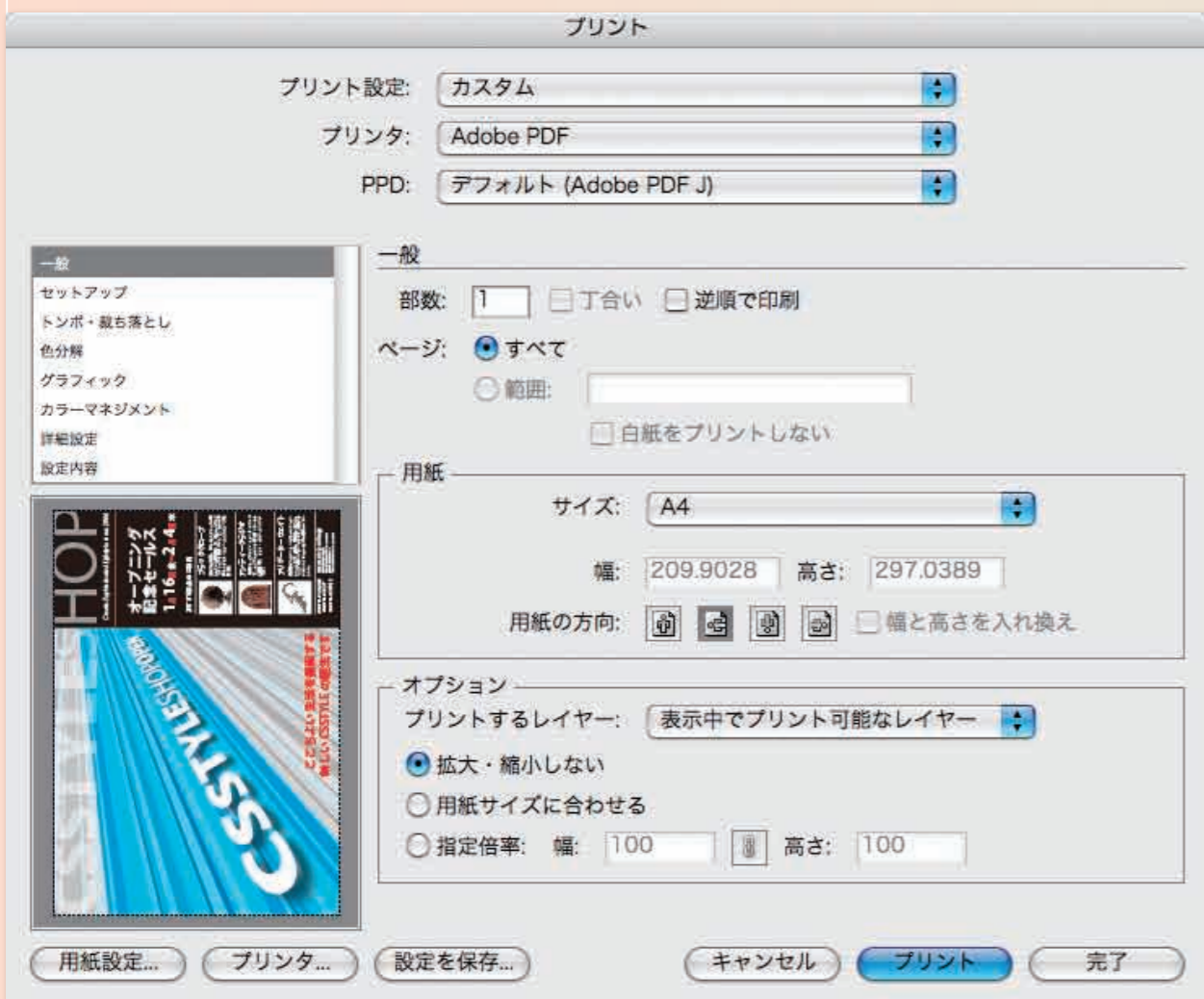
メタデータのサポート

アドビシステムズ社が開発したXMP (eXtensible Metadata Platform) は、パブリッシングワークフロー全体において、メタデータの作成、処理、および相互交換を標準化するオープンなXMLフレームワークです。XMPメタデータを追加することにより、例えば、インターネットの検索エンジンを使って、ユーザーがファイルに追加したキーワードを基に検索したり、自分の画像に簡単にアクセスすることができます。XMP規格は、Adobe Photoshop CS、Adobe InDesign CS、Adobe Acrobat 6.0 Professionalなど、Adobe Creative Suiteの他の製品でもサポートされるので、Illustratorファイルに入力したメタデータ情報はこれらのアプリケーションで開いても保持されます。

より安全かつ高品質な出力環境の提供

以前のバージョンのIllustratorでは…

- 出力をするための設定機能が散らばっていた。
- 出力品質を書類作成者が設定する必要があり、出力事故などの問題が起こる場合があった。
- 出力パフォーマンスが低く遅かった。



Adobe Illustrator CSを使うと…

確実な出力をするための対応を強化しています

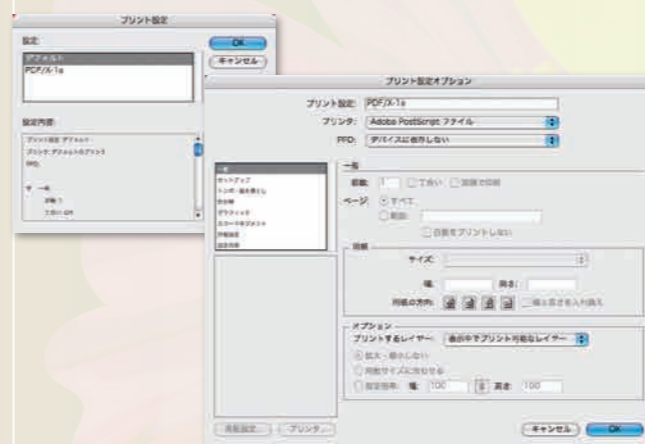
Adobe Illustrator CSを開発するにあたっての最優先事項の1つは、出力先がデスクトッププリンタであろうとハイエンドの印刷装置であろうと、区別なくAdobe Illustratorから常に効率的で信頼できる印刷を行えるようにするとともに、印刷手順を改善することでした。これを実現するために、Adobe Illustrator CSでは強化されたインタフェースと確実で高速な印刷のための機能をサポートし、ユーザが簡単に一貫した結果を得られる環境を実現しました。また、日本の印刷事情に合わせた設定の採用や分割プレビューの搭載などにより、出力時の品質を最適化することができます。

プリントパフォーマンスがさらに向上しています

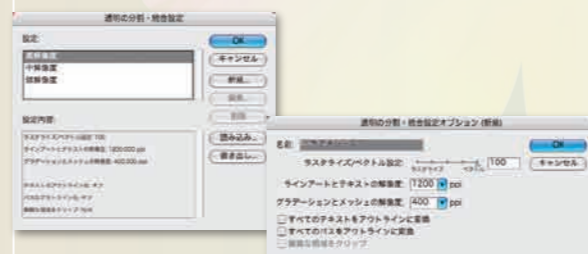
Adobe Illustratorは全般的にパフォーマンス向上が図られており、作業効率がアップします。透明効果を含むアートワークの分割・統合の制御機能を拡張し、印刷または書き出し時に出力速度と品質のいずれを優先するかについて出力側のユーザが指定できるようにするだけでなく、プリントパフォーマンスそのものもさらに向上しています。



統合されたプリントダイアログボックス



プリント設定ダイアログボックスとプリセット



透明設定ダイアログボックスとプリセット



分割プレビューパレットでの確認

統合されたプリントダイアログ

Adobe Illustrator CSからは用紙設定と色分解設定ダイアログボックスの代わりに、これらの機能を統合した新しいプリントダイアログボックスが搭載されています。ページ分割、カスタム用紙サイズ、印刷マーク、カラーマネジメント出力プロファイル、透明の分割統合設定など、あらゆる印刷設定がこのプリントダイアログボックスから指定できるようになり、印刷オプションを以前よりも迅速かつ正確に指定し、期待する出力結果を得ることができます。追加された印刷プレビュー機能により、アートワークのサムネールを表示し、現在選択中の印刷設定についての詳細で視覚的な情報を提供します。

便利な拡大縮小オプション

Adobe Illustrator CSでは大型のアートワークでも簡単に標準サイズの用紙に印刷できます。新しい「用紙サイズに合わせる」オプションは、アートワークを縦横比を保持したままページサイズに合わせて自動的にスケールします。拡大縮小オプションを使えば、Adobe Illustratorがアートワークをスケールする比率や、幅と高さを同じ比率で拡大縮小するか、別々に拡大縮小するかをカスタム指定できます。

直観的なページ分割制御

Adobe Illustrator CSのページ分割制御は、統合されたプリントダイアログボックス内に表示され大型サイズのデザインを複数の用紙に分割設定をより簡単に直観的に指定できます。配置アイコンで任意の箇所をクリックするか、原点の値を指定することによって、タイル印刷されたページ上のアートワークの位置を制御できます。

時間を短縮するプリント設定のプリセット

Adobe Illustrator CSでは、印刷設定をプリントプリセットとして保存し、時間を短縮し、ミスをなくし、一般的な印刷作業を自動化することができます。プリント設定で新規プリセットを定義したり、プリントダイアログボックスから直接プリントプリセットを保存することができます。

透明の分割・統合プリセットにより一貫性を向上

Adobe Illustrator CSでは、透明効果を含むアートワークの分割・統合の制御機能を拡張し、印刷または書き出し時に出力速度と品質のいずれを優先するかについて出力側のユーザが指定できるようにしました。また、透明の分割・統合設定をプリセットとして保存し、作業時間の短縮とファイルの一貫性を維持することができます。

新しい色分解オプション

ホストベースの色分解出力のサポートに加え、Adobe Illustrator CSはRIPベース (In-RIP) の色分解に対応しています。このワークフローは、トラッピングや面付けといった付加的なIn-RIP処理の際にも最適です。また、EPSF Riderファイルを用いなくても、プリンタ出力をカスタマイズできるため、個々のインキについてのドット特性、スクリーン角度、スクリーン解像度をより迅速かつ直接的に制御できます。

分割プレビュー

確実な出力をするために、透明機能が適用されているファイルの出力結果をプレビューできます。

データ入稿の方法

Adobe Illustrator CSでは、幅広い出力のニーズに合うように、さまざまなファイル形式がサポートされています。すべてのIllustratorデータを保存できる基本のファイル形式には、Adobe Illustrator書類形式(ネイティブデータ)、Illustrator EPS、Adobe PDF*およびSVG*の4種類があります。また、Adobe Acrobat 6.0 Professionalと組み合わせることでPDF/X-1aまたはPDF/X-3を書き出すことができます。

データ入稿に適した出力形式は、Adobe Illustrator書類、PDF/XおよびIllustrator EPSで、特にAdobe Illustrator書類またはPDF/X-1aによるデータ入稿をお勧めします。EPSで入稿をする必要がある場合には、事前に印刷会社などに入稿方法を確認してください。

* Adobe PDFおよびSVG形式で保存する場合、すべてのIllustratorデータを保持するには「Illustratorの編集機能を保持」オプションを選択する必要があります。

Adobe Illustrator書類(ネイティブ書類)での入稿

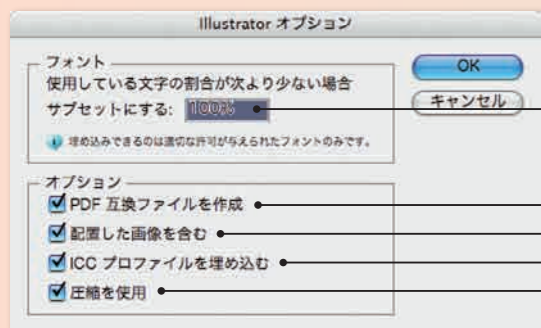
おすすめ

- メリット**
- 出力品質を安定させることができます。
 - PDFを利用した簡潔なワークフローが構築できます。

- デメリット**
- 特にありません。

- (作成方法)
- 書類を保存する際に、「Adobe Illustrator書類」を選択します。保存ダイアログボックスは左図を参考に設定してください。
- 配置画像をすべて添付します。*
 - 使用フォントについて明記します。コピーが許諾されている欧文フォントは添付します。*
 - 書類情報のデータをプリントアウトして添付します。

*印刷会社の対応によっては添付が不要場合があります。あらかじめ、印刷会社と相談してください。



「100%」にします。

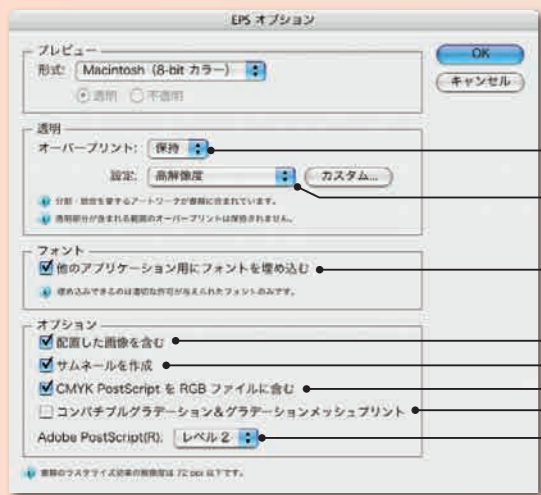
すべてチェックします。

EPSでの入稿

- メリット**
- 従来から普及している最も一般的な入稿方法です。

- デメリット**
- 出力品質は書類作成者が設定する必要があります。
 - 画像、フォントを添付して入稿する必要があります。
 - ファイルサイズが大きくなり、保存や出力に時間がかかる場合があります。
 - ICCプロファイルに対応していないため、カラーマネジメントが困難です。

- (作成方法)
- 書類を保存する際に、「Illustrator EPS (eps)」を選択します。保存ダイアログボックスは左図を参考に設定してください。
- 分割設定について、事前に印刷会社/サービスビューロと相談をしてください。
 - 配置画像をすべて添付します。
 - 使用フォントについて明記します。コピーが許諾されている欧文フォントは添付します。
 - 書類情報のデータをプリントアウトして添付します。



基本的に初期設定で構いません。

「高解像度」に設定します。

チェックします。

基本的に初期設定で構いません。

出力機器にあわせて設定します。わからない場合は「レベル2」に設定します。

PDF/Xでの入稿

おすすめ

- メリット**
- 出力品質が安定しています。
 - 画像、フォント、印刷情報などすべて含むため、入稿するファイルはひとつでOKです。
 - PDFを利用した簡潔なワークフローが構築できます。

- デメリット**
- 特にありません。

(作成方法)

Adobe Illustrator CSでPDF/X-1aを作成する場合は、次の手順に従ってください。

まず、作成された書類をAdobe Illustrator CS上で確認し、問題がなければプリントからPostScript書き出しを行い、Adobe Acrobat Distiller 6.0でPDF/X-1aに変換します。

作成されたPDF/X-1aはAdobe Acrobat 6.0 Professionalでプリフライトします。解析して問題がなければ、検証済みのデジタルスタンプを付加して入稿します。問題がある場合には、プリフライトで指摘されますので、その部分をAdobe Illustrator CSに戻って修正します。

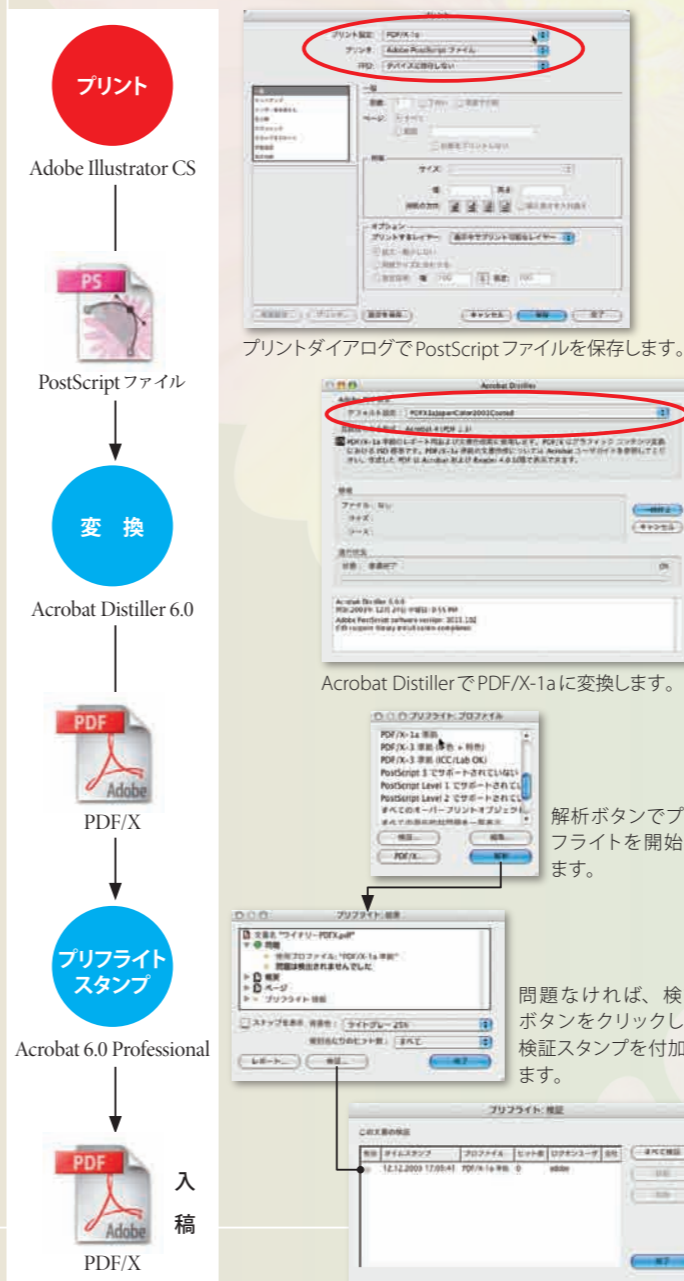
Adobe Illustrator CSでの設定とPostScriptファイルの書き出し

Adobe Illustrator CSでPostScriptファイルを書き出すには、プリントダイアログを使って行います。アドビWebサイトから入手できる設定ファイルを利用して最適な設定を適用してください。

PDF/Xとは

PDF/Xは、印刷用データとしてのISO(国際標準化機構)の規格で、PDFの運用上のガイドラインを示しています。PDF/XはPDF上で、印刷上のトラブルの原因となるカラー、フォントなどの諸設定の運用を制限し、円滑な印刷工程を実現するものです。

ISOの規格としてのPDF/Xには、PDF/X-1aとPDF/X-3があります。PDF/X-1aは、特定の出力デバイスで 사용되는CMYKおよび特色のワークフローをサポートするものです。PDF/X-3は、Labなどのデバイスに依存しないカラーを利用したワークフローをサポートするものです。



Acrobat Distillerでの設定と変換

PostScriptファイルをPDF/X-1aに変換する前に、Acrobat Distiller 6.0がPostScriptファイルをPDF/X-1aに変換できるように環境設定する必要があります。

PDF/X-1aに変換するためには、アドビWebサイトから入手できる設定ファイルを適用します。

Acrobat Distiller 6.0を起動し、デフォルト設定を「PDFX1aJapanColor2001Coated」に設定します。

Adobe Illustrator CSから書き出されたPostScriptファイルにはページサイズの情報が設定されていないため、Acrobat Distiller 6.0でページサイズを設定する必要があります。

設定メニュー> Adobe PDF設定の編集を選択し、「一般」のデフォルトページサイズで出力するページサイズを入力します。

※トンボ、裁ち落としなどを設定している場合は、それらを含むサイズを指定してください。

設定が完了したら、Adobe Illustrator CSから書き出したPostScriptファイルをAcrobat Distiller 6.0でPDF/X-1aに変換します。

Adobe Acrobat 6.0 Professionalでの検証

PDFが作成されたら、Adobe Acrobat 6.0 Professionalでプリフライトと検証スタンプの付加を行ってから入稿してください。

アドビWebサイトからダウンロード可能な設定ファイル

以下のサイトからファイルを入手して利用していただくことができます。

<http://www.adobe.co.jp/print/printproinfo.html>

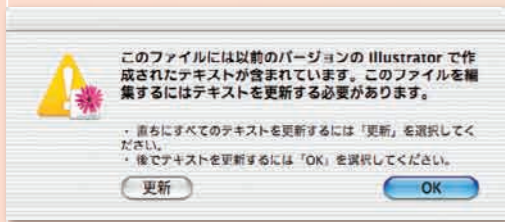
旧バージョンとの互換性：書類の読み込み

テキストの互換性について

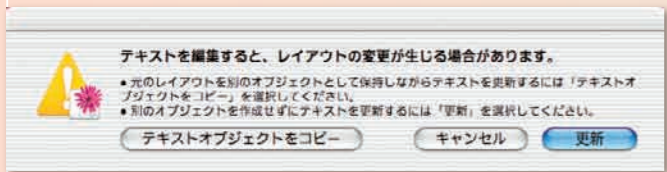
Adobe Illustrator CSでは、新しく導入されたテキストエンジンにより、OpenTypeのフルサポート、最高品質のテキスト組版、Unicode対応および便利な文字スタイルと段落スタイルを使用できます。このため、以前のバージョンのIllustratorで作成されたテキスト(レガシーテキスト)をAdobe Illustrator CSで編集するには、テキストを更新する必要があります。

テキストの更新

以前のバージョンのIllustratorで作成されたテキストが含まれている書類を開くときには、テキストをすぐに更新するか後で更新するかを選択することができます。初期設定では、書類内のテキストを更新すると、書類名の末尾に自動的に[更新済み]という文字が追加されます。



テキストを更新すると、行送り、カーニングなどの文字の位置属性の変更、ハイフネーションの変更を伴うエリア内文字オブジェクトでの改行位置の変更による文字の移動などの、レイアウトの変更が行われる場合があります。このような変更を避けるために、テキストを更新しないこともできます。更新されていないテキストを、レガシーテキストと呼びます。レガシーテキストは、表示、移動およびプリントできますが、編集することはできません。書類を開いた後で、特定のオブジェクトのレガシーテキストを更新することもできます。この場合、コピーを作成せずにレガシーテキストを更新するか、更新したテキストの下のレイヤーにレガシーテキストのコピーを保持するかを選択することができます。更新したテキストの下のレイヤーにレガシーテキストのコピーを保持するには、まず文字ツールを選択して更新するテキスト内をクリックするか、選択ツールを使用して更新する文字をダブルクリックします。次に、「テキストオブジェクトをコピー」をクリックします。この操作により、更新したテキストとレガシーテキストのレイアウトを比較できます。レガシーテキストはグレーで表示され、更新したテキストの下に表示されます。



アドビのオリジナル書体は、その優れた品質と書体デ

レガシーテキストはグレーで表示され、更新したテキストの下に表示されます。コピーしたレガシーテキストは文字メニュー>テキストを更新>コピーを削除を使用して削除できます

レガシーテキストを更新した場合の主な注意点と調整

自動行送り

自動行送り値は文字サイズの120%に設定されます(例えば、10ポイントの文字の行送りは12ポイントになります)。この際、自動行送り値が、120%をポイント単位に換算する際の計算で生じる丸め誤差によって、旧バージョンと異なる場合があります。行送りがずれる場合には、旧バージョンでの行送り値を入力して補正します。

カーニング

更新されたテキストは、カーニングが「自動」に設定されます。カーニングが「自動」に設定されている場合、OpenTypeフォントを使用していると、プロポーショナルに詰め処理されます。ベタ組みにしたい場合には、カーニングを「0」に設定します。※以前のバージョンのIllustratorでは、OpenTypeの詰め処理(プロポーショナルメトリクス)には対応していません。

手動カーニング

手動カーニングを適用している箇所は、カーニングがすべて「0」に変換されます。あらかじめ手動カーニングを設定する必要があります。

文字詰め

OCFフォントやCIDフォントの詰めは、無効になります。OpenTypeフォントを詰める場合には、OpenTypeパレットのプロポーショナルメトリクスをチェックします。文字設定パレットでカーニングを「自動」にした場合には、プロポーショナルメトリクスに加えて、主に欧文フォントなどに搭載されているペアカーニング*が適用されます。文字設定パレットのカーニングを「自動」にするだけでも、OpenTypeフォントの詰めは行えますが、手動カーニングを適用した場合、挿入ポイントの両側の文字詰めが解除されます。*ペアカーニングは、アドビの和文フォント(小塚明朝、小塚ゴシック)の仮名でも適用されます。

文字組み

Illustrator CSでは、文字組みセットを選択して、日本工業規格(JIS)の仕様JISx4051-1995に準拠したさまざまな日本語組版を実現することができます。文字組みセットの編集は文字組みアキ量設定で行います。初期設定では、以前のバージョンのIllustratorにある「文字組み」とは組版結果が異なりますので、ご注意ください。

ぶら下がり

以前のバージョンのIllustratorで作成された書類を更新した場合、ぶら下がりが設定されていると「強制」が適用されます。標準で処理したい場合には、段落設定パレットメニューから切り替えます。

禁則処理

禁則処理設定は自動的に変換されます。ただし、Illustrator CSの「強い禁則」には以下の文字が新たに禁則対象文字に指定されていますので、旧バージョンでの処理を維持したい場合には、文字メニュー>禁則処理設定で、設定をカスタマイズしてください。

新しく追加された禁則対象文字：# ¥ \$ ° °C °F @ % % % \$ ¢ £ ¥

また、以前のバージョンのIllustratorで禁則処理オプションの設定で「追い込み処理」項目をオフにしている場合には、更新後に、段落設定パレットメニューの禁則調整方式を追い出し優先または追い出しのみに設定します。

エリア内文字オプション

Illustrator CSと以前のバージョンのIllustratorでは、テキストエリア内で、1行目の行揃えの基準となるオフセット値が異なります。このため、1行目の開始位置がずれる場合があります。更新すると、1行目のベースライン基準が「レガシー」に設定されていますが、これを「仮想ボディの高さ」に変更して調整します。

バージョン間の主な日本語組版処理の相違一覧表

主な日本語組版処理の相違			Illustrator CS	レガシーテキストを更新した場合	Illustrator 10/9/8	Illustrator 7	Illustrator 5.5	レガシーテキストを更新した場合の調整
行送り基準	文字設定パレットメニュー	行送り基準	日本語基準の行送り	欧文基準の行送り	欧文基準の行送り(固定)	欧文基準の行送り(固定)	欧文基準の行送り(固定)	
自動行送り	ジャスティフィケーション設定ダイアログ	自動行送り	175%	120% *	120%	120%	120%	換算誤差の修正をして調整
		自動行送りの編集	○	○	×	×	×	
		単語の間隔：最小	80%	100%	100%	100%	100%	
		単語の間隔：最適	100%	100%	100%	100%	100%	
		単語の間隔：最大	133%	200%	200%	200%	200%	
		文字の間隔：最小	0%	0%	0%	0%	0%	
		文字の間隔：最適	0%	0%	0%	0%	0%	
		文字の間隔：最大	0%	5%	5%	5%	5%	
		グリフ幅拡大/縮小：最小	100%	100%	—	—	—	
		グリフ幅拡大/縮小：最適	100%	100%	—	—	—	
グリフ幅拡大/縮小：最大	100%	100%	—	—	—			
カーニング	文字設定パレット	カーニング値	0	0	自動	自動	0	カーニング値を調整
		行頭でのカーニング	○	○	×	×	○	
トラッキング	文字設定パレット	トラッキング値	0	値を保持	0	0	0	
文字詰め	文字設定パレット OpenTypeパレット	OpenTypeの詰め	○	○	×	×	×	
		CIDフォントの詰め	×	×	○	○	○	
		文字ツメ	0%	0%	—	—	—	
文字組み	段落設定パレット	文字組みセット	行末約物半角	なし	オフ	オフ	オフ	
		文字組みセットの編集	○	○	×	×	×	
縦組み中の欧文回転	文字設定パレットメニュー	縦組み中の欧文回転	オフ	自動的に処理	オフ	オフ	オフ	
		縦中横	オフ	自動的に処理	オフ	オフ	オフ	
文字揃え	文字設定パレットメニュー	文字揃え	中央	ベースライン	ベースライン	ベースライン	ベースライン	
		文字揃えの編集	○	○	×	×	×	
割注	割注設定ダイアログ	行数	2	2	—	—	—	
		割注サイズ	50%	50%	50%	50%	—	
		行の間隔	0	0	—	—	—	
		行揃え	自動	自動	—	—	—	
		改行オプション：1行目の最小文字数	2	2	—	—	—	
		改行オプション：最終行の最小文字数	2	2	—	—	—	
		ハイフネーション	段落設定パレット	ハイフネーション	オフ	自動的に処理	オフ	オフ
ぶら下がり	段落設定パレットメニュー	オンにした時の設定	選択可能	強制	標準	強制	標準	標準/強制の確認
禁則処理	段落設定パレット	初期設定	強い禁則	自動的に処理	なし	なし	弱い禁則	
		強い禁則	○	○	○**	○**	×	禁則処理設定の編集で調整
		弱い禁則	○	○	○	×	○	
		禁則処理設定の編集	○	○	×	×	×	
		段落設定パレットメニュー	初期設定	追い込み優先	追い込み優先***	追い込み優先	追い込み優先	追い込み優先(固定)
分離禁止文字処理	オン	オン	オン	オン	オフ			
エリア内文字	エリア内文字オプションダイアログ	オフセット：1列目のベースライン	仮想ボディの高さ	レガシー	レガシー(固定)	レガシー(固定)	レガシー(固定)	「仮想ボディの高さ」に設定して調整
		オフセットの編集	○	○	×	×	×	

* 換算誤差によって値が異なる場合があります。

** 対象文字に# ¥ \$ ° °C °F @ % % % \$ ¢ £ ¥ は含まれません。

*** 書類の設定に関わらず「追い込み優先」になります。

Conversion

旧バージョンとの互換性：書類の書き出し

Illustrator形式やEPS形式での書類の保存

Adobe Illustrator CSで作成された書類は、アートワークの編集を保持するため、CS互換の形式でしか保存できないようになっています。作業中のアートワークはIllustrator書類形式で保存し、完成したアートワークを目的の形式で書き出すことをお勧めします。

データ書き出し

以前のバージョンのIllustratorと互換性のある書類を作成するには、「データ書き出し」コマンドを使用します。フォーマットで「Illustrator Legacy (ai)」または「Illustrator Legacy EPS (eps)」を選択します。以前のバージョンのIllustrator書類形式やIllustrator EPS書類形式では、グラデーション、レイヤー、透明、文字設定など一部の機能がサポートされない場合があるので注意してください。

データ書き出した書類を以前のバージョンのIllustratorで書類を開いた場合、Adobe Illustrator CSで作成したレイアウトを保持するために、テキストオブジェクトが分割される場合があります。

●テキスト：データ書き出した書類を以前のバージョンのIllustratorで書類を開いた場合、Adobe Illustrator CSで作成したレイアウトを保持するために、テキストオブジェクトが分割される場合があります。

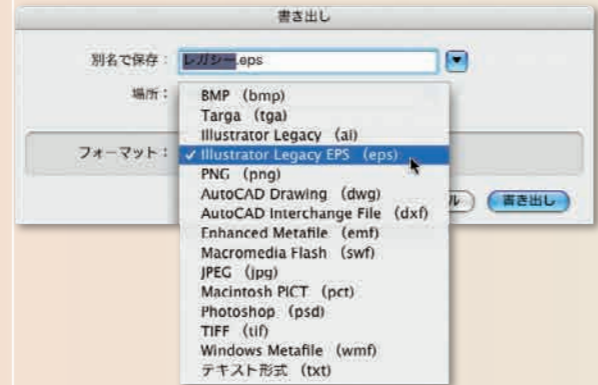
●透明/効果/アピアランス：データ書き出した書類をIllustratorの以前のバージョンで書類を開いた場合、Adobe Illustrator CSで作成したアートワークを保持するために、オブジェクトが分割される場合があります。

以前のバージョンのIllustratorでサポートされない主なIllustratorデータ一覧

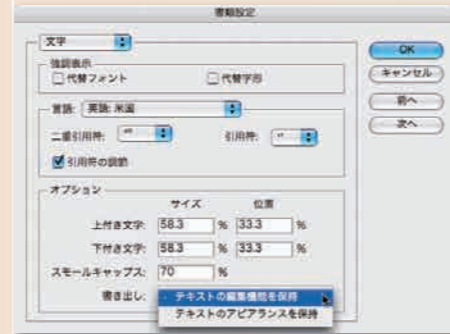
	Illustrator 10	Illustrator 9	Illustrator 8	Illustrator 3日本語
レイヤー	○	○	○	×
ネストレイヤー	○	○	×	×
透明	○	○	分割	分割
効果	○	○	分割	分割
3D	分割	分割	分割	分割
落書き	分割	分割	分割	分割
ワープ	○	分割	分割	分割
アピアランス	○	○	分割	分割
日本語組版	分割/アウトライン	分割/アウトライン	分割/アウトライン	分割/アウトライン
OpenType フォント	○	○	×	×
字形(異体字)	アウトライン	アウトライン	アウトライン	アウトライン
OpenType機能	分割/アウトライン	分割/アウトライン	分割/アウトライン	分割/アウトライン
エンベロープ	○	分割	分割	分割
グラデーションメッシュ	○	○	○	分割
ブレンド	○	○	○	分割
シンボル	○	分割	分割	分割
ブラシ	○	○	分割	分割
グラデーション	○	○	○	分割
パターン	○	○	○	○
パスファインダ(複合シェイプ)	○	分割	分割	分割
単位				
ピクセル	○	○	×	×
級/歯	○	○	○	×
選択範囲の保存	○	×	×	×
配置画像				
埋め込み画像	○	○	○	×
RGB画像	○	○	○	×
アートワークサイズ	○	○	○	×*
カラーモード				
書類のカラーモード	○	○	CMYKに変換	CMYKに変換
RGBカラー	○	○	○	CMYKに変換
プロファイルの指定	○	○	×	×
Web				
スライス	○	○	×	×
URL	○	○	○	×

*カスタム：457.2mm×457.2mmに設定されます。
※「Illustrator 3」互換は日本語をサポートしていませんので、ご注意ください。

旧バージョンと互換性のある書類はデータ書き出しコマンドを利用します



書類設定で書き出す際のテキスト分割を調整できます



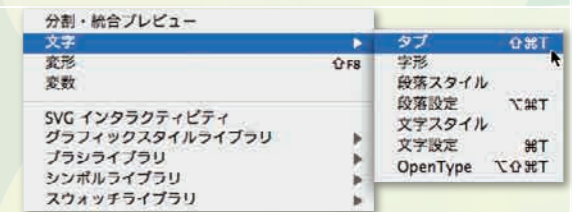
テキストに関するQ&A

Q-1 タブを設定しようと思って文字メニューを探したのですが、見当たりません。

A タブはタブパレットで設定をすることができます。

タブパレットを開くには、ウィンドウメニュー>文字>タブを選択します。

※以前のバージョンのIllustratorでは、左揃えの場合のみタブが有効でしたが、Illustrator CSでは左揃え以外でもタブが有効になります。



Q-2 文字設定パレットにあつた「組み」のチェック項目がありません。「組み」の機能は使えないのでしょうか？

A 段落設定パレットの「文字組み」設定で行えます。

文字組みアキ量設定を編集することで、より細かい調整が可能になります。設定を保存したり、外部ファイルに書き出すことができますので、ハウスルールを素早く適用することが可能です。

Q-3 文字設定パレットにあつた「詰め」のチェック項目がありません。「詰め」の機能は使えないのでしょうか？

A OpenTypeパレットの「プロポーショナルメトリクス」をチェックすることで、OpenTypeフォントの詰め情報(プロポーショナルメトリクス)が利用できます。文字設定パレットでカーニングを「自動」にした場合には、プロポーショナルメトリクスに加えて、主に欧文フォントなどに搭載されているペアカーニングが適用されます。文字設定パレットのカーニングを「自動」にするだけでも、OpenTypeフォントの詰めは行えますが、手動カーニングを適用した場合、挿入ポイントの両側の文字詰めが解除されます。

OCFフォントやCIDフォントの詰め情報は利用できません。

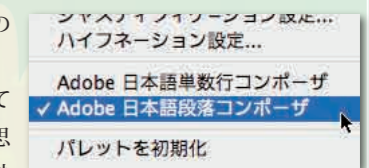
また、文字設定パレットの「文字ツメ」を利用すると、文字間のアキ量(サイドベアリング)を調整して文字を詰めることができます。

Q-4 Adobe日本語単数行コンポーザとAdobe日本語段落コンポーザの違いは何でしょうか？

A Adobe日本語単数行コンポーザは、禁則処理や行揃えの設定を1度に1行のテキストに対して適用するものです。以前のバージョンのIllustratorが使用していた方法に近いのが単数行コンポーザです。

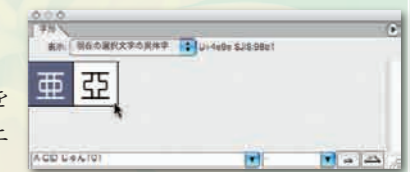
Illustrator CSの新しいAdobe日本語段落コンポーザ(以下、段落コンポーザ)は、より見た目が美しく均整がとれて読みやすいテキストを作ります。段落コンポーザは、エリア内の全テキストを評価した上で、全体から見て最適と思われる改行位置の組み合わせを決めます。段落コンポーザでは、調整のために手動で改行を入れることなく、精妙な文字組みを実現する機能を提供します。

コンポーザの切り換えは、段落設定パレットサブメニューから選択します。



Q-5 CIDフォントの字体切り換え機能がメニューから選べません。どのようにすればよいのでしょうか？

A 字形パレットを利用します。字形パレットの表示ポップアップメニューから「現在の選択文字の異体字」を選択すると利用できる異体字が表示されます。字形パレットは文字メニュー>字形を選択するか、ウィンドウメニュー>文字>字形を選択して表示できます。



Q-6 カーニングにある「オプティカル」とは、「自動」とどのような違いがあるのでしょうか？

A 「オプティカル」カーニングでは、隣り合った文字間のアキを文字の形に基づいて調整することができます。ペアカーニング情報が最小限しか含まれていない、または全く含まれていないフォントの場合、または、1行内に異なるフォントやフォントサイズを使用している場合には、「オプティカル」カーニングを使用してカーニングを調整します。「オプティカル」カーニングは、Illustrator CSの機能であり、フォントの持っている機能ではありません。

「オプティカル」カーニングは主に欧文フォントを使用している場合に動作します。基本的に和文フォントには対応していません。

「自動」カーニングでは、フォントが持っているプロポーショナルメトリクスとペアカーニングが適用されます。フォントにプロポーショナルメトリクスやペアカーニングがない場合には変化しません。

※プロポーショナルメトリクスはOpenTypeフォントに搭載される詰め情報です。ペアカーニングは主に欧文フォントや一部の和文フォントに搭載されています。アドビの和文フォント(小塚明朝、小塚ゴシック)の仮名にはペアカーニングが搭載されています。

Creative Suite

Adobe Creative Suite

Adobe Version Cue™



Adobe Creative Suiteに同梱されているAdobe Version Cueを利用することで、ファイル管理やバージョン管理、プロジェクト管理が容易になります。ファイルの更新履歴を常に把握できるだけでなく、プロジェクトの共有によるグループワークを容易にします。

Version Cueでは、ファイルのすばやく検索やファイルの更新履歴のトラッキングを行うことができます。Version Cueは、使い慣れたAdobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe InDesign、Adobe GoLiveのユーザインタフェースから使用することができます。Version Cueを使用することにより、ファイルを共有することが多いクリエイティブチームのワークフローをよりシンプルにすることができます。

ファイルをすばやく検索

Version Cueを使用すれば、デザインツールの使い勝手そのまま、意識することなくファイルの管理ができます。ファイルの作成者や著作権情報、ファイルの種類、コメント等のメタデータによるキーワード検索で、必要なファイルをすばやく探すことができます。

プリントもWebも自在に作成できるトータルデザイン環境

Adobe Creative Suiteは、アドビの最新のクリエイティブツールであるAdobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe InDesign、Adobe GoLive®およびAdobe Acrobat Professionalを統合し、さらにAdobe Version Cue™の革新的なファイル管理機能も組み合わせたトータルなデザイン環境です。印刷やWebコンテンツを簡単に短時間・低コストで作成できます。

ファイルバージョン(更新履歴)のトラッキング

新しい「バージョン保存」コマンドを使用すれば、ファイル更新のたびに別名保存を行うわずらわしさから解放されます。「バージョン保存」されたファイルの更新履歴はリスト表示で一覧が可能です。過去のファイルバージョンはいつでも呼び出すことができます。

ファイルやプロジェクトの共有

クリエイティブチームの場合、複数ユーザが携わるプロジェクトをVersion Cueで管理することで、誤ってファイルが上書きされてしまうような事故を回避できます。Version Cueによって全ファイルのステータスが自動的に追跡されるため、従来のように編集のためにファイルをチェックアウトしたり予約したりする必要がありません。

Version Cueコメントをファイルに追加して、チーム内で最新のプロジェクト情報を共有することで、最も効果的で生産的なワークフローで作業を行うことができます。ワークスペース管理オプションでは、セキュリティオプションの設定やプロジェクトのバックアップ、パッチ処理による古いバージョンの削除など、さまざまな操作を行うことができます。



Adobe InDesign® cs



Adobe InDesign CSは、クロスメディアに向けたプロフェッショナルなページレイアウトとデザインのための新しいスタンダードです。多くの革新的な機能とインタフェースの改良により、今まで以上に斬新なアイデアをもって、すばやくページを作成し、どんな印刷環境においても確実に出力することができます。また、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe Acrobatと密接に連携しながら、一貫した高品質で効率的なパブリッシングワークフローを実現します。

分版プレビューパレット

分版プレビューを使用してプレート、オーバープリント、インキ残量などをプレビューし、プリントエラーを防止します。

強力なクロスメディアサポート

XMLサポートの拡張により、コンテンツを複数のメディアでパブリッシングできます。

柔軟なワークスペース管理

新しいコントロールパレットやカスタムワークスペースなど、強化されたワークスペース機能により、作業内容に最適なワークスペースを瞬時に呼び出すことができます。

透明機能

ドロップシャドウ、ぼかし、その他の透明設定を適用・編集できます。透明を適応したPhotoshopファイルを、ソフトエッジを保持したまま配置できます。

作表機能

Adobe InDesign CSは、標準で強力な作表機能を搭載しています。また、Microsoft WordやExcelで作成したスタイル付きの表またはタブ区切りテキストファイルを読み込んだ後、交互の行に色を塗るなどのデザインを素早く行うことができます。

ネイティブファイルのサポート

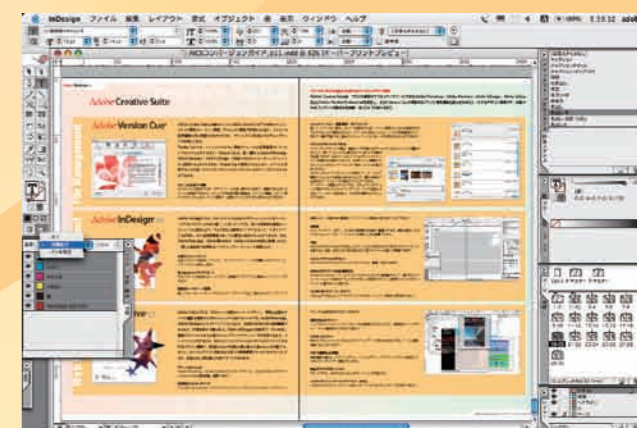
レイヤーや透明を含むPhotoshopやIllustratorのネイティブファイルをそのまま配置・印刷できます。

Adobe PDFファイルを直接書き出し

Adobe Acrobat 6.0、5.0、4.0のファイルをAdobe InDesignから直接書き出して、レビューや印刷を行うことができます。PDF/Xファイルへの書き出しも可能です。

「GoLive用パッケージ」コマンド

Adobe InDesign CSで作成したレイアウトとアセットをWebページとして簡単に再利用できます。



Adobe GoLive® cs



Adobe GoLive CSは、Webサイトの設計からページデザイン、管理に必要なすべての機能を提供するプロフェッショナル向けのツールです。Adobe Photoshop、Adobe Illustratorのネイティブファイルなどを、Adobe GoLive内で直接編集できるなど、作業効率が大幅に向上。Adobe InDesignの印刷用データを共有し、複数のデバイスにわたる真のクロスメディアパブリッシングを実現できます。インタフェースが改良され、自分のワークスタイルに合わせてカスタマイズできるWebデザイン環境で、創造性および生産性を最大限まで高めることが可能です。さらに、モバイルデバイス用を含めた多くの業界標準テクノロジーをサポートしており、妥協のない最先端のWebデザインが行えます。

スマートオブジェクト

Adobe Photoshop、Adobe Illustratorのネイティブファイル、およびAdobe PDFファイルをGoLive内に直接配置、編集できます。

統合されたコラボレーション

FTP、HTTP(S)、WebDAVによるコラボレーションが可能です。

視覚的なCSSオーサリング

CSS Level 1およびLevel 2でのビジュアルオーサリングとプレビューにより、スタイルレンダリングと結果表示が素早く行えます。

柔軟な表示オプション

レイアウトモードとソースコードモードを分割表示することにより、直感的にページデザイン・Webサイト構築を行うことができます。

XHTMLのサポート

既存のHTMLファイルを、Webおよびモバイルデバイス用の有効なXHTMLページに変換、更新することができます。

XMLの編集および検証

検証機能を備えたレイアウトエディタ、ソースエディタ、アウトラインエディタを使用して、XMLのオーサリング・検証が行えます。

マルチメディアメッセージングサービス(MMS)

2.5Gおよび3Gモバイルデバイス用にスライドショーなどのコンテンツを作成できます。

